

**IBM Content Manager for Multiplatforms**



## **Content Manager バージョン 8 へのマイグレーション**

**バージョン 8 リリース 2**



**IBM Content Manager for Multiplatforms**



## **Content Manager バージョン 8 へのマイグレーション**

**バージョン 8 リリース 2**

お願い

本書、および本書で記述されている製品をご使用になる前に、59 ページの『特記事項』をお読みください。

本書は、IBM Content Manager for Multiplatforms の バージョン 8 リリース 2 (製品番号 5724-B19) に適用されます。また、改訂版において特に指定がない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC27-1343-01  
IBM Content Manager for  
Multiplatforms  
Migrating to Content Manager Version 8  
Version 8 Release 2

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

# 目次

本書について	v
本書の対象読者	v
必要とされるスキル	v
本書で使用する規則	vi
追加情報の入手先	vi
ご購入の製品パッケージに含まれている情報	vi
Web で入手可能なサポート	vii

## 第 1 章 概説

旧バージョンの Content Manager と Content Manager バージョン 8 の相違点	1
改良されたワークフロー	1
共通システム管理	1
リソース・マネージャー	1
統合テキスト検索	2
イメージ検索	2
1 対 1 のマイグレーション	2
マッピングでの切り捨てと文字置換	2
拡張データ・モデル	3
ワークフロー関連の概念	6
エンドツーエンド・シナリオ	6

## 第 2 章 構成ごとのマイグレーション

すぐに使用可能な版のマイグレーション	14
VideoCharger を含む Content Manager バージョン 6 または 7 からバージョン 8 へ	15
VisualInfo/Digital Library バージョン 2 OS/2 オブジ ェクト・サーバーを含む Content Manager バージョ ン 6 または 7 からバージョン 8 へ	18
カスタム・フォルダー・マネージャー・アプリケー ションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、ICM コネクター・アプリケーションを含む バージョン 8 へ	20
カスタム DL コネクター・アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、カス タム ICM コネクター・アプリケーションを含むバ ージョン 8 へ	22

EIP ツールキットおよびカスタム EIP アプリケーシ ョンを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネクター・ツールキットおよびカス タム EIP アプリケーションを含むバージョン 8 へ	24
EIP ツールキットおよび eClient を含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネク ター・ツールキットおよび eClient を含むバージョ ン 8 へ	26
Content Manager バージョン 7 から、バージョン 7 および 8 の両方を含むシステムへ	28

## 第 3 章 データのマイグレーション

準備作業	31
マイグレーション・ウィザードの実行	33
Content Manager バージョン 8 へのウィザード出力 のインポート	36

## 第 4 章 アプリケーションのマイグレーシ ョン

フォルダー・マネージャー (C) アプリケーションを マイグレーションするための推奨ステップ	39
バージョン 7 (およびそれ以前) の DL コネクタ ー・アプリケーションのマイグレーションに関する 推奨事項	40
Content Manager および Enterprise Information Portal 用の API マイグレーション・テーブル	40

## 付録. マイグレーションに関する詳細情報

特記事項	59
商標	61
用語集	63
参照文献	81
索引	83



---

## 本書について

本書は、IBM® Content Manager for Multiplatforms のデータおよびアプリケーションの計画およびマイグレーションに必要な情報を提供しています。本書では、ガイドライン、推奨事項、および、さまざまなマイグレーション・シナリオの詳細なステップについて説明しています。

---

## 本書の対象読者

本書は、以下にリストする Content Manager 製品の旧バージョンから Content Manager バージョン 8 へのマイグレーションのために必要な作業を担当しているユーザーを対象としています。

- Content Manager バージョン 6
- Content Manager バージョン 7

ここで必要とされている作業には、Content Manager の旧バージョンの機能コンポーネントのマイグレーション、データのマイグレーション、アプリケーションのマイグレーションなどがあります。

---

## 必要とされるスキル

既存の Content Manager システムの構成に応じて、Windows® オペレーティング・システムや AIX® オペレーティング・システムに関する知識が必要となります。

データをマイグレーションするには、次の知識が必要になります。

- システム操作
- ネットワーク管理
- DB2 Universal Database™ に対するデータベース管理
- Oracle に対するデータベース管理 (Oracle データ・ソースを使用している場合)

アプリケーションをマイグレーションするには、次のスキルおよびツールが必要になります。

### スキル

- Java™ または C++ のプログラミング
- Windows 95、Windows 98、Windows NT、Windows 2000、または AIX 4.3.0 以降のプログラミング
- リレーショナル・データベース・テクノロジーの経験
- C、C++ で作成されたプログラムのコンパイルとリンク、および Windows 環境、または AIX に関する知識
- オンライン・デバッグ手法に関する知識
- DB2® Universal Database
- Oracle に対するデータベース管理 (Oracle データ・ソースを使用している場合)

### ツール

- Oracle (Oracle データ・ソースを使用している場合)
- 32 ビット Windows アプリケーションを生成可能な Java または C++ コンパイラー (たとえば、Microsoft® Visual C++ バージョン 6)、または AIX で提供されているコンパイラー

## 本書で使用する規則

特に断らない限り、以下の規則を使用します。

- 本書で *Windows NT* と言及する場合、Windows NT® 4.0 および Windows 2000 のことを指します。
- 旧バージョンの *Content Manager* とは、Content Manager for Multiplatforms バージョン 6 および Content Manager for Multiplatforms バージョン 7 を指します。

## 追加情報の入手先

ご購入の製品パッケージには、システムの計画、インストール、管理、および使用に役立つ情報のセットがすべて含まれています。製品の資料およびサポートは Web でもご利用いただけます。

## ご購入の製品パッケージに含まれている情報

製品パッケージには、Information Center および PDF 形式 (.PDF) の資料が含まれています。

### Information Center

製品パッケージには、本製品のインストール時にインストール可能な Information Center が含まれています。Information Center のインストールについては、「*Content Management System* の計画とインストール」を参照してください。

Information Center には、Content Manager、Enterprise Information Portal、および VideoCharger™ の資料が含まれています。トピックに基づいた情報が、製品ごと、およびタスクごと (たとえば、管理) に編成されています。ナビゲーション機構および索引の他に、検索機能も提供されているので、情報を容易に取り出すことができます。

### PDF 資料

PDF ファイルは、ご使用のオペレーティング・システムに対応した Adobe Acrobat Reader を使用してオンラインで表示することができます。Acrobat Reader がインストールされていない場合は、Adobe 社の Web サイト ([www.adobe.com](http://www.adobe.com)) からダウンロードすることができます。

表 1 に、IBM Content Manager for Multiplatforms に含まれている Content Manager の資料を示します。

表 1. *Content Manager* の資料

ファイル名	タイトル	資料番号
install	<i>Content Management System</i> の計画とインストール <sup>1</sup>	GC88-9200-01
migrate	<i>Content Manager V8</i> へのマイグレーション	SC88-9202-01



表 1. *Content Manager* の資料 (続き)

ファイル名	タイトル	資料番号
sysadmin	システム管理ガイド	SC88-9201-01

IBM Content Manager for Multiplatforms には IBM Enterprise Information Portal for Multiplatforms も付属しています。あるいは、別途 IBM Enterprise Information Portal for Multiplatforms を注文することもできます。表 2 に、同製品に含まれている Enterprise Information Portal の資料を示します。

表 2. *Enterprise Information Portal* の資料

ファイル名	タイトル	資料番号
apgwork	ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド <sup>1</sup>	SC88-9205-01
ecliinst	eClient のインストール、構成と管理	SC88-9207-02
eipinst	Information Integrator for Content の計画とインストール	GC88-9203-01
eipmanag	Information Integrator for Content の管理	SC88-9204-01
messcode	メッセージとコード <sup>2</sup>	SC88-9206-01

注:

1. 「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」には、Content Manager および Enterprise Information Portal の両方のアプリケーション・プログラミングに関する情報が含まれています。
2. 「メッセージとコード」には、Content Manager および Enterprise Information Portal のメッセージとコードが含まれています。

## Web で入手可能なサポート

製品のサポートは Web でもご利用いただけます。以下のアドレスの、製品の Web サイトで「サポート (Support)」をクリックしてください。

[www.ibm.com/software/data/cm/](http://www.ibm.com/software/data/cm/)

[www.ibm.com/software/data/eip/](http://www.ibm.com/software/data/eip/)

資料はソフトコピーとして製品に付属しています。Web 上で製品の資料にアクセスするには、製品の Web サイトで **Library** をクリックしてください。

Web からは HTML ベースの資料インターフェース (Enterprise Documentation Online (EDO) と呼ばれます) も利用することができます。現在のところ EDO には API 解説書の情報が含まれています。EDO へのアクセスについては、Enterprise Information Portal の Library Web ページを参照してください。



---

## 第 1 章 概説

この章では、旧バージョンの Content Manager と Content Manager バージョン 8 との違いについて、概要を説明します。また、プロセスのエンドツーエンド・シナリオとして、マイグレーションの高度な概要についても説明します。

---

### 旧バージョンの Content Manager と Content Manager バージョン 8 の相違点

このセクションでは、Content Manager バージョン 8 の新機能と概念、およびそれらと旧バージョンの Content Manager との間の対応について簡単に説明します。

#### 改良されたワークフロー

統合された文書ルーティングにより、Content Manager バージョン 8 では順次ルーティング、動的ルーティング、およびコレクション・ポイントを含むワークフローの機能が改善されています。

文書ルーティング、およびシステム管理クライアントで文書ルーティングをインプリメントする方法の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。文書ルーティングを使用するためのアプリケーションのコーディングについては、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

Enterprise Information Portal バージョン 8 をインストールする場合は、オプションとして拡張ワークフローをインストールすることができます。Enterprise Information Portal バージョン 8 では、MQSeries® Workflow のユーザー定義のシャドーの生成、および保守は不要になっています。それだけでなく、MQSeries または MQSeries Workflow のインストール、構成、および保守の必要もありません。文書ルーティングと拡張ワークフローとの違いについては、「Content Management System の計画とインストール」を参照してください。

#### 共通システム管理

単一のシステム管理クライアント・アプリケーションを使用して、Content Manager または Enterprise Information Portal (およびそのすべてのコンテンツ・サーバー) のいずれかにアクセスできるようになりました。Content Manager 内では、管理ドメインにより、ライブラリー・サーバーのサブセクションへの管理アクセスを制限することができます。

Content Manager のシステム管理クライアントについては、「システム管理ガイド」を参照してください。Enterprise Information Portal のシステム管理クライアントについては、「Information Integrator for Content の管理」を参照してください。

#### リソース・マネージャー

リソース・マネージャーは、旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバーを拡張したものです。オブジェクト・サーバーの場合と同様、アプリケーション

ンでは、リソース・マネージャーを使用して、オブジェクトを保管、取得、および管理することができます。新しいリソース・マネージャーはまた、Content Manager バージョン 8 の新規 API からオブジェクトへの直接クライアント・アクセス、およびサード・パーティー・アクセスをサポートしています

1 つまたは複数のリソース・マネージャーのセットアップ方法については、「*Content Management System の計画とインストール*」を参照してください。リソース・マネージャーにアクセスするためのアプリケーションのコーディングについては、「*ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド*」を参照してください。

## 統合テキスト検索

Content Manager バージョン 8 では、テキスト検索のためのテキスト検索エンジンは使用されなくなりました。その代わりに、テキスト検索およびメタデータ検索には、DB2 Universal Database の Text Information Extender (TIE) が使用されます。

Content Manager バージョン 8 でもテキストの索引付けは使用できますが、新たに機能を組み合わせることにより、以下のことが可能になります。

- 属性ベースのテキスト検索を実施する
- 項目およびコンポーネントの複雑な検索を、以前よりも優れたパフォーマンスで簡単にインプリメントする
- システムをテキスト検索用に簡単にセットアップする

Text Information Extender を使用したテキスト検索の詳細、およびシステム管理クライアントでテキスト検索をインプリメントする方法の詳細については、「*システム管理ガイド*」を参照してください。TIE を使用してテキスト検索を実行するためのアプリケーションのコーディングについては、「*ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド*」を参照してください。

## イメージ検索

Content Manager バージョン 8 では、イメージ検索はサポートされなくなりました。

## 1 対 1 のマイグレーション

データ・モデルが変更されたため、一部のものを 1 対 1 でマイグレーションすることができません。たとえば、索引クラスは項目タイプへマイグレーションされます。また、多値属性は、Content Manager バージョン 8 には明示的に存在しません。したがって、Content Manager バージョン 7 で多値属性を使用していた場合、それらは子コンポーネントとして Content Manager バージョン 8 へマイグレーションされます。

## マッピングでの切り捨てと文字置換

Content Manager バージョン 8 では、内部名と表示名の両方を、項目タイプ、属性、およびビューなどのエンティティへ関連付けることができます。

マイグレーション・プロセスで、これらのエンティティへ関連付けられていた Content Manager 7.1 名は、Content Manager バージョン 8 では表示名へマップされ

ます。Content Manager バージョン 8 の内部名に関連した長さや文字セットに対する制限のため、マイグレーション・ユーティリティーは、Content Manager バージョン 7.1 名を Content Manager バージョン 8 の内部名へマッピングするときに、切り捨てと文字置換を行います。

具体的には、内部名には英数字だけを含めることができます。Content Manager バージョン 7.1 名に英数字以外の文字が含まれている場合、それらの文字は下線 ( \_ ) に変更されます。また、内部名は 16 文字以下です。このため、16 文字を超える Content Manager バージョン 7 名には、切り捨てが行われます。

Content Manager バージョン 7 名、およびそれらが Content Manager バージョン 8 でどのようにマップされるかは、マイグレーション・プロセスで項目タイプや属性の詳細ビューを表示することによって、および sysadmin プログラムの各ビューを表示することによって見るすることができます。

## 拡張データ・モデル

表 3 は、旧バージョンの Content Manager および製品で使用されていた中心となる概念の用語を、Content Manager バージョン 8 で使用されている用語にマップしたものです。Content Manager および Enterprise Information Portal の用語はすべて 63 ページの『用語集』に定義されています。

表 3. 基本用語の用語マップ

旧バージョンの Content Manager	Content Manager バージョン 8	Enterprise Information Portal	オンデマンド	IWP/WAF
キー・ フィールド	属性	統合属性	フィールド	キーワード・ フィールド
索引クラス	項目タイプ	統合 エンティティー	アプリケーション・ グループ	フォルダー・ タイプ
検索基準		検索基準	検索基準	
		検索テンプレート	フォルダー	
パーツ	リソース項目		文書	

Content Manager バージョン 8 には、拡張データ・モデルが組み込まれています。以下の概念が拡張または追加されています。

- 階層項目タイプ: Content Manager バージョン 8 では、旧バージョンの Content Manager の索引クラスは項目タイプとして拡張されています。
- Content Manager バージョン 8 では、旧バージョンの Content Manager のパーツはリソース項目として拡張されています。
- Content Manager バージョン 8 では、バージョン管理が拡張されています。
- Content Manager バージョン 8 では、リンクが拡張されています。
- Content Manager バージョン 8 では、参照が新規に追加されました。
- Content Manager バージョン 8 では、属性グループが新規に追加されました。

### 階層項目タイプ

旧バージョンの Content Manager で索引クラスと呼ばれていた項目タイプは、単一のレベルで構成されていました。Content Manager バージョン 8 では、項目タイプ

はルート・コンポーネントおよび 1 つ以上のオプションの子コンポーネントで構成されます。(ルート・コンポーネントしか含まない項目タイプは、旧バージョンの Content Manager における索引クラスと等価であると考えてください。)

子コンポーネントで構成される階層のレベルは任意の深さにすることができ、各レベルには複数の子コンポーネントを含めることができます。各子コンポーネントは、それ自体の子コンポーネントを持つことができ、複合集合体の関係を形成します。これは、Content Manager の新しいフィーチャーです。

ルートまたは他の親コンポーネントを除去すると、関連する子コンポーネントも同様に除去されます。

階層項目タイプ、項目タイプ、ルート・コンポーネント、および子コンポーネントの概念の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。「システム管理ガイド」では、システム管理クライアントを使用してこれらのエレメントを作成および使用する方法についても説明されています。階層項目タイプを含む、項目タイプをアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください

## 項目

項目 とは、項目タイプのインスタンスです。項目タイプは、階層のテンプレートに従います。項目は、それ自体で完全なものにすることも、リソース・マネージャー上のオブジェクトを指すこともできます。リソース・マネージャー上のオブジェクトを指す項目は、リソース項目 です。オブジェクト とは、基本的には LOB (レンジ・オブジェクト) であり、たとえば、JPEG イメージ、MP3 オーディオ、AVI ビデオ、またはユーザーが 1 つの単位として保管、取り出し、および操作できるブックのテキスト・ブロックなどがあります。

項目、リソース項目、およびオブジェクトの概念の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。「システム管理ガイド」では、システム管理クライアントを使用してこれらのエレメントを作成および使用する方法についても説明されています。項目およびオブジェクトをアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

## バージョン管理

Content Manager バージョン 7 では、バージョン管理はパーツに対して使用することができました。Content Manager バージョン 8 では、複数のバージョンを持つ任意の項目を定義することができます。バージョン管理には、ルート・コンポーネントから始まる項目階層全体が含まれます。子コンポーネントは、ルートのバージョンを継承します。子コンポーネントのバージョンは個別には変更できませんが、保守するバージョン数は定義することができます。この制限を超えると、項目の最も古いバージョンが最新のバージョンで置き換えられます。

バージョン管理の概念およびシステム管理クライアントでバージョンを作成する方法の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。バージョンをアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。



## リンク

旧バージョンの Content Manager では、フォルダーと 1 つ以上の文書との間のリンクの概念には制限がありました。Content Manager バージョン 8 におけるリンクとは、ルート・コンポーネント・レベルの項目間の 1 対多の関連です。

そのようなリンクは、集合体の関係を形成するとも考えられます。リンクを使用すると、親子の関連を表すことができます。これは、旧バージョンの Content Manager における文書とフォルダーの関係に似ています。ただし、Content Manager バージョン 8 では、リンクによりこの関係をより一般的なものにすることができます。他の項目とリンクしているルート・コンポーネントは、それらの項目を所有しているわけではありません。したがって、リンクの親であるルート・コンポーネントを削除しても、リンク先の子項目が削除されることはありません。

リンクの概念、およびシステム管理クライアントでリンクを作成する方法の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。リンクをアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

## 参照

参照とは、項目間の一方向の 1 対 1 の関連です。ルート・コンポーネントまたは子コンポーネントと、他のルート・コンポーネントとの間の参照を使用することができます。参照は、コンポーネント内の参照属性として表されます。コンポーネントは複数の参照属性を持つ場合があり、各参照属性は他のルート・コンポーネントを参照します。

また、バージョン 7 とは対照的に、Content Manager バージョン 8 における参照は、システムによって完全に保守されるようになっています。

参照の概念およびシステム管理クライアントで参照を作成する方法の詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。参照をアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

## 属性グループ

Content Manager バージョン 8 における属性は、旧バージョンの Content Manager における属性と同じです。Content Manager バージョン 8 では、属性グループという概念が導入されました。

属性グループを使用すると、項目タイプの作成時の使い勝手を良くするために関連属性を収集することができます。個々の属性を個別に配置、選択、追加しなくても、属性グループを選択することでそれらをすべて選択することができます。属性グループの例としては住所があります。住所は、郵便番号、都道府県、市区町村、番地という属性を組み合わせたものです。

属性グループを変更しなくても属性を個別に保持し続けることができます。

属性グループはネストできません。属性グループの各メンバーは、それ自体別のグループのメンバーになることはできません。

Content Manager バージョン 8 では、多値属性のサポート方法が異なります。1 つの属性に対して複数の値を保管する必要がある場合には、子コンポーネントを作成します。

属性 (多値属性を含む)、および属性グループの詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。「システム管理ガイド」では、システム管理クライアントで属性および属性グループを作成する方法が説明されています。属性および属性グループをアプリケーションにコーディングする方法については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。

## ワークフロー関連の概念

表 4 は、旧バージョンの Content Manager および製品で使用されていたワークフローに関連した概念的な用語を、Content Manager バージョン 8 および Enterprise Information Portal バージョン 8 で使用されている用語にマップしたものです。Content Manager および Enterprise Information Portal の用語はすべて 63 ページの『用語集』で定義されています。

表 4. ワークフローおよび文書ルーティングの用語マップ

EIP バージョン 7 のワーク フロー	旧バージョンの Content Manager の ワークフロー		Content Manager バージ ョン 8 の文書 ルーティング	
		EIP バージョン 8 の拡張ワーク フロー		IWP/WAF
アクション・ リスト		アクション・ リスト		アクション・ リスト
ワークフロー	ワークフロー	ワークフロー	プロセス	作業プロセス
作業項目		文書または フォルダー	文書または フォルダー	事例または 作業事例
ワーク・リスト	ワーク バスケット	ワーク・リスト	ワーク バスケット <sup>1</sup> 、 ステップ、 コンテナ、 または システム割り当 てワークバスケ ット	ワーク バスケット
ワーク・ パケット		フォルダー		作業パッケージ
作業状態		作業状態	作業ステップ	
				作業セット

注:

1. 管理者のみが使用可能です。

## エンドツーエンド・シナリオ

7 ページの表 5 は、可能なマイグレーションのシナリオを要約したものです。このシナリオでは、マイグレーションされたシステムを稼働する前にマイグレーションを検証するためのテスト・システムを作成します。



このシナリオは、マイグレーション・プロセスの高水準の概要として使用できます。詳細については、11 ページの『第 2 章 構成ごとのマイグレーション』、31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』、および 39 ページの『第 4 章 アプリケーションのマイグレーション』を参照してください。

表 5. エンドツーエンドのマイグレーション・シナリオ

ステップ	旧バージョンの Content Manager サーバー <sup>1</sup>	Content Manager バージョン 8 サーバー <sup>2</sup>	クライアント・ワークステーション
1	データベースのバックアップをとります。可能な場合は、オブジェクト・サーバーの実際のオブジェクトのバックアップをとります。		
2	Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。 <b>推奨:</b> 十分なディスク・スペースを確保するために、バージョン 8 のライブラリー・サーバーは旧バージョンのライブラリー・サーバーとは異なるコンピューターにインストールしてください。		
3	各旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じコンピューター上には、オブジェクト・サーバーごとに 1 つの Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。バージョン 8 の要件を満たさないコンピューターがある場合は、まず以下のことを行ってください。 <ul style="list-style-type: none"><li>要件を満たすようコンピューターをアップグレードする</li><li>旧バージョンのオブジェクト・サーバーを、要件を満たすマシンに移動し、テストする</li></ul>		
4	<p>オプション: システム・セットアップおよび実際のデータの両方を試験的にマイグレーションします。次のいずれかを実行することができます。</p> <p><b>システム定義およびユーザー・データのマイグレーション (完全)</b>      マイグレーション・ウィザード<sup>3</sup>を使用します。</p> <p><b>システム定義のマイグレーションのみ (部分)</b>      マイグレーション・ウィザード<sup>3</sup>を使用してシステム定義データをマイグレーションし、次に旧バージョンの Content Manager システムから代表的な文書をインポートします。</p> <p>どちらの手順を取る場合でも、提供されたクライアント・アプリケーションに対して十分なテストを行ってください。</p>		

表 5. エンドツーエンドのマイグレーション・シナリオ (続き)

ステップ	旧バージョンの Content Manager サーバー <sup>1</sup>	Content Manager バージョン 8 サーバー <sup>2</sup>	クライアント・ワークステーション
5			既存のカスタム・クライアント・アプリケーションを使い続ける場合は、それらのアプリケーションを更新して、バージョン 8 の API を使用するようになる必要があります。
6		システム管理クライアントを使用して、バージョン 8 のシステムと旧バージョンの Content Manager システムを比較します。	<p>オプション: Content Manager バージョン 8 Client for Windows を少なくとも 1 台のワークステーションにインストールし、マイグレーションされたデータへのアクセスをテストしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旧バージョンの Content Manager のクライアントは、引き続き旧バージョンの Content Manager サーバーにアクセスします。</li> <li>Content Manager バージョン 8 のテスト用クライアントにより、バージョン 8 のサーバーにアクセスできるようになっています。</li> </ul>
7			すべてのクライアント・ワークステーションに Content Manager バージョン 8 Client for Windows をインストールします。 <b>重要:</b> ユーザーには、通知があるまでは旧バージョンの Content Manager クライアントを継続して使用し、Content Manager バージョン 8 クライアントは使用しないよう通知してください。
8	すべての複製が完全であること、すべての適用可能オブジェクトがデステージングされたこと、ステージング域がパージされたことを確認します。		
9		マイグレーション・ウィザード <sup>3</sup> を再度実行して、システム定義およびユーザー・データの両方をマイグレーションします。	

表 5. エンドツーエンドのマイグレーション・シナリオ (続き)

ステップ	旧バージョンの Content Manager サーバー <sup>1</sup>	Content Manager バージョン 8 サーバー <sup>2</sup>	クライアント・ワークステーション
10	システム管理クライアントを使用して、旧バージョンの Content Manager システム・セットアップ情報と、マイグレーションされたシステムのセットアップを比較します。	システム管理クライアントを使用して、バージョン 8 のシステムと旧バージョンの Content Manager システムを比較します。	Content Manager バージョン 8 のクライアントを使用して、マイグレーションされたデータにアクセスします。カスタム・クライアント・アプリケーションがある場合は、それらをテストします。
11			すべてのワークステーションから旧バージョンの Content Manager クライアントを除去します。 <sup>4</sup>
12	旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。 <sup>5</sup>		

**注:**

1. ライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーです。
2. ライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーです。バージョン 8 では、オブジェクト・サーバーはリソース・マネージャーと呼ばれています。
3. マイグレーション・ウィザードの実行方法については、31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』を参照してください。
4. 旧バージョンの Content Manager Client for Windows および Content Manager バージョン 8 Client for Windows はそれぞれ同一のワークステーション上で共存します。旧バージョンのクライアントを除去しても残りのクライアントには影響しません。
5. 旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバーおよび Content Manager バージョン 8 のリソース・マネージャーはそれぞれ同一のワークステーションに共存します。旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しても残りのリソース・マネージャーには影響しません。



## 第 2 章 構成ごとのマイグレーション

この章では、可能な 8 つのオリジナルの構成から可能な 8 つの新規の構成へマイグレーションするためのステップを説明します。以下のシナリオでは、Content Manager 6 または Content Manager 7 から Content Manager 8 へのマイグレーションについて、Oracle および DB2 データベースとの関連で説明します。ただし、データベース相互間のマイグレーションはサポートされていません。Oracle から Oracle へ、および DB2 UDB から DB2 UDB へのマイグレーションはできますが、Oracle から DB2 UDB へ、またはその逆はできません。

表 6 を参照して、読者の状況に最も近いマイグレーション・シナリオを見つけ、それを使用して実際のマイグレーションに必要なステップを理解してください。(この章では、旧バージョンの *Content Manager* は、Content Manager バージョン 6 および Content Manager バージョン 7 を指します。また、*Windows NT* は、Windows NT および Windows 2000 の両方を指します。)

表 6. マイグレーション・シナリオの要約

シナリオ 番号	オリジナルの構成	目的とする構成	使用手順
1	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー、または OS/2 上の VisualInfo または Digital Library バージョン 2.4 のライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	14 ページの『すぐに使用可能な版のマイグレーション』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 の Client for Windows、またはバージョン 2.4 の Client for OS/2	バージョン 8 の Client for Windows	
2	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	15 ページの『VideoCharger を含む Content Manager バージョン 6 または 7 からバージョン 8 へ』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	Windows NT 上または AIX 上の VideoCharger バージョン 7	Windows NT 上または AIX 上の VideoCharger バージョン 8	
	旧バージョンの Content Manager Client for Windows	バージョン 8 の Client for Windows	

表 6. マイグレーション・シナリオの要約 (続き)

シナリオ 番号	オリジナルの構成	目的とする構成	使用手順
3	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	18 ページの『VisualInfo/Digital Library バージョン 2 OS/2 オブジェクト・サーバーを含む Content Manager バージョン 6 または 7 からバージョン 8 へ』
	OS/2® 上の VisualInfo™ または Digital Library バージョン 2 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	旧バージョンの Content Manager Client for Windows	バージョン 8 の Client for Windows	
4	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	20 ページの『カスタム・フォルダー・マネージャー・アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、ICM コネクター・アプリケーションを含むバージョン 8 へ』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	カスタム・フォルダー・マネージャー・アプリケーション	カスタム ICM コネクター・アプリケーション	
5	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	22 ページの『カスタム DL コネクター・アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、カスタム ICM コネクター・アプリケーションを含むバージョン 8 へ』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	カスタム DL コネクター・アプリケーション	カスタム ICM コネクター・アプリケーション	

表 6. マイグレーション・シナリオの要約 (続き)

シナリオ 番号	オリジナルの構成	目的とする構成	使用手順
6	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	24 ページの『EIP ツールキットおよびカスタム EIP アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネクター・ツールキットおよびカスタム EIP アプリケーションを含むバージョン 8 へ』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	Enterprise Information Portal バージョン 7 ツールキット	Enterprise Information Portal バージョン 8 コネクター・ツールキット	
	Enterprise Information Portal バージョン 7 を使用するカスタム統合アプリケーション	Enterprise Information Portal バージョン 8 を使用するカスタム統合アプリケーション	
7	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー	26 ページの『EIP ツールキットおよび eClient を含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネクター・ツールキットおよび eClient を含むバージョン 8 へ』
	Windows NT 上または AIX 上の旧バージョンの Content Manager オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー	
	Enterprise Information Portal バージョン 7 ツールキット	Enterprise Information Portal バージョン 8 コネクター・ツールキット	
	Enterprise Information Portal バージョン 7 eClient	Enterprise Information Portal バージョン 8 eClient	
8	Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 7 ライブラリー・サーバー	次の共存ライブラリー・サーバー <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 7 のライブラリー・サーバー</li> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー</li> </ul>	28 ページの『Content Manager バージョン 7 から、バージョン 7 および 8 の両方を含むシステムへ』
	Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー	次の共存リソース・マネージャー <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 7 のオブジェクト・サーバー</li> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー</li> </ul>	
	Content Manager 7 Client for Windows	次の共存クライアント <ul style="list-style-type: none"> <li>• バージョン 7 の Client for Windows</li> <li>• バージョン 8 の Client for Windows</li> <li>• Enterprise Information Portal バージョン 8 統合アプリケーション: eClient またはカスタム</li> </ul>	

## すぐに使用可能な版のマイグレーション

このセクションで説明するマイグレーション・シナリオは、旧バージョンの Content Manager または VisualInfo/Digital Library バージョン 2.4 および Content Manager バージョン 8 の基本版、つまり導入後すぐに使用可能な版に適用されます。表 7 に、マイグレーションの前と後の構成を要約して示します。

表 7. マイグレーション・シナリオ 1 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 ライブラリー・サーバー、あるいは OS/2 上の VisualInfo または Digital Library バージョン 2.4 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 の Client for Windows、またはバージョン 2.4 の Client for OS/2	バージョン 8 の Client for Windows

表 7 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。  
バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。
  - 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
  - バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。



3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されています。バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. 「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 Client for Windows をインストールします。  
ご使用の環境には多くのクライアント・マシンが含まれている場合があります。データをマイグレーションする前に新しいクライアントをインストールすることにより、マイグレーションが完了すれば即時にデータを使用できるようになります。
5. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

6. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
7. オプション: 旧バージョンの Content Manager クライアントを除去します。
8. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## VideoCharger を含む Content Manager バージョン 6 または 7 からバージョン 8 へ

表 8. マイグレーション・シナリオ 2 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー

表8. マイグレーション・シナリオ 2 の要約 (続き)

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
Windows NT 上または AIX 上の VideoCharger バージョン 7	Windows NT 上または AIX 上の VideoCharger バージョン 8
Content Manager バージョン 6 または 7 の Client for Windows	バージョン 8 の Client for Windows

15 ページの表 8 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。  
バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。
  - ・ 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
  - ・ バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されています。バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。  
インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能

性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. 「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 Client for Windows をインストールします。  
ご使用の環境には多くのクライアント・マシンが含まれている場合があります。データをマイグレーションする前に新しいクライアントをインストールすることにより、マイグレーションが完了すれば即時にデータを使用できるようになります。
5. 「*VideoCharger* の計画とインストール」で説明されているように、VideoCharger バージョン 8 をインストールします。  
AIX 上の VideoCharger バージョン 7 からマイグレーションする場合は、次の追加ステップを実行する必要があります。
  - a. VideoCharger バージョン 7 MMFS (マルチメディア・ファイル・システム) に保管されているビデオを、VideoCharger バージョン 8 GPFS にコピーします。GPFS のセットアップについては、AIX 5L 関連資料の「*System Management Concepts: Operating System and Devices*」および「*System Management Guide: Operating System and Devices*」を参照してください。
  - b. 付属のカatalog・ユーティリティを実行し、ステップ 5a でコピーしたビデオのカatalogを再作成します。
6. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべてのステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

7. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
8. オプション: 旧バージョンの Content Manager Client for Windows を除去します。
9. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## VisualInfo/Digital Library バージョン 2 OS/2 オブジェクト・サーバーを含む Content Manager バージョン 6 または 7 からバージョン 8 へ

表9. マイグレーション・シナリオ 3 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
OS/2 上の VisualInfo または Digital Library バージョン 2 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
Content Manager バージョン 6 または 7 の Client for Windows	バージョン 8 の Client for Windows

表9 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. Content Manager バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールするマシンに、Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 のオブジェクト・サーバーをインストールします。この手順は、「計画およびインストールの手引き バージョン 6.1」(GD88-7322-00) および「Content Manager の計画およびインストール バージョン 7.1」(GC88-8742-00) で説明されています。
3. VisualInfo または Digital Library バージョン 2 のオブジェクト・サーバーから Content Manager バージョン 6 またはバージョン 7 のオブジェクト・サーバーに、オブジェクトをリモートでマイグレーションします。旧バージョンのリリースから Content Manager バージョン 6.1 へのマイグレーションについては、「計画およびインストールの手引き バージョン 6.1」(GD88-7322-00) を参照してください。旧リリースから Content Manager バージョン 7.1 へのマイグレーションについては、「Content Manager の計画およびインストール バージョン 7.1」(GC88-8742-00) を参照してください。
4. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。  
バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。
  - 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
    - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
  - バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが

Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

5. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

6. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 Client for Windows をインストールします。

ご使用の環境には多くのクライアント・マシンが含まれている場合があります。データをマイグレーションする前に新しいクライアントをインストールすることにより、マイグレーションが完了すれば即時にデータを使用できるようになります。

7. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

8. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
9. オプション: 旧バージョンの Content Manager Client for Windows を除去します。
10. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。



## カスタム・フォルダー・マネージャー・アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、ICM コネクター・アプリケーションを含むバージョン 8 へ

表 10. マイグレーション・シナリオ 4 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
カスタム・フォルダー・マネージャー・アプリケーション	カスタム ICM コネクター・アプリケーション

表 10 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。

バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。

- 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
- バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。

バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. マイグレーション・ウィザードを実行して、システム定義データを旧バージョンのライブラリー・サーバーから新規のライブラリー・サーバーにマイグレーションします。これにより、カスタム・アプリケーションを更新中にデータにアクセスすることができます。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。
5. ICM コネクター API を使用するよう、カスタム・アプリケーションを更新します。フォルダー・マネージャー API と ICM コネクター API の間のマップについては、40 ページの『Content Manager および Enterprise Information Portal 用の API マイグレーション・テーブル』を参照してください。
6. クライアント・ワークステーションにカスタム・アプリケーションをインストールします。
7. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**まだマイグレーション・プロセスをテストしている場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

8. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
9. オプション: 旧バージョンのカスタム・アプリケーションを除去します。
10. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## カスタム DL コネクタ・アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、カスタム ICM コネクタ・アプリケーションを含むバージョン 8 へ

表 11. マイグレーション・シナリオ 5 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
カスタム DL コネクタ・アプリケーション	カスタム ICM コネクタ・アプリケーション

表 11 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。

バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。

- 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
- バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。



バージョン 8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。

4. マイグレーション・ウィザードを実行して、システム定義データを旧バージョンのライブラリー・サーバーから新規のライブラリー・サーバーにマイグレーションします。これにより、カスタム・アプリケーションを更新中にデータにアクセスすることができます。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。
5. ICM コネクター API を使用するよう、カスタム・アプリケーションを更新します。アプリケーションをマイグレーションして ICM コネクター API を使用する方法については、39 ページの『第 4 章 アプリケーションのマイグレーション』を参照してください。

**制限:** イメージ検索は ICM コネクターではサポートされていません。

6. クライアント・ワークステーションにカスタム・アプリケーションをインストールします。
7. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

Content Manager または Enterprise Information Portal のテキスト検索フィーチャーを使用している場合は、テキスト検索のためのインターフェースが変更されているので注意が必要です。DL コネクターは TextMiner を使用していましたが、ICM コネクターは DB2 Universal Database Text Information Extender を使用します。この変更のためにテキスト文書をすべて再索引付けする必要があるため、これにはかなりの時間がかかります。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

8. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
9. オプション: 旧バージョンのカスタム・アプリケーションを除去します。
10. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## EIP ツールキットおよびカスタム EIP アプリケーションを含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネクター・ツールキットおよびカスタム EIP アプリケーションを含むバージョン 8 へ

表 12. マイグレーション・シナリオ 6 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
Enterprise Information Portal バージョン 7 ツールキット	Enterprise Information Portal バージョン 8 コネクター・ツールキット
Enterprise Information Portal バージョン 7 を使用するカスタム統合アプリケーション	Enterprise Information Portal バージョン 8 を使用するカスタム統合アプリケーション

表 12 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。

バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。

- 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
- バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。バージョン

8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Enterprise Information Portal バージョン 8 をインストールします。
5. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

6. Enterprise Information Portal バージョン 7 のデータベースを Enterprise Information Portal バージョン 8 のシステム管理データベースにマイグレーションするには、「Content Management System の計画とインストール」の手順に従います。Enterprise Information Portal バージョン 7 のデータベースのマイグレーション・プロセスでは、Content Manager バージョン 7 のユーザー、エンティティー、および属性マッピングが、Content Manager バージョン 8 に自動的にマイグレーションされます。
7. C++ 統合アプリケーションがある場合は、それらを再コンパイルします。カスタム統合アプリケーションは Enterprise Information Portal バージョン 8 での使用のために変更する必要はありません。
8. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
9. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## EIP ツールキットおよび eClient を含む Content Manager バージョン 6 または 7 から、EIP コネクタ・ツールキットおよび eClient を含むバージョン 8 へ

表 13. マイグレーション・シナリオ 7 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 ライブラリー・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 6 または 7 オブジェクト・サーバー	Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー
Enterprise Information Portal バージョン 7 ツールキット	Enterprise Information Portal バージョン 8 コネクタ・ツールキット
Enterprise Information Portal バージョン 7 eClient	Enterprise Information Portal バージョン 8 eClient

表 13 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。バージョン 8 をインストールする前に、旧バージョンのライブラリー・サーバーを除去しないようにします。

バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。

- 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
- バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。バージョン

8 のリソース・マネージャーをインストールする前に、旧バージョンのオブジェクト・サーバーを除去しないようにします。

**要件:** バージョン 8 のリソース・マネージャーは、インストールしている旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーと同じ数だけ必要です。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. 「Content Management System の計画とインストール」で説明されているように Enterprise Information Portal バージョン 8 をインストールします。
5. 「eClient のインストール、構成と管理」で説明されているように、Enterprise Information Portal バージョン 8 eClient をインストールします。eClient のインストール・プログラムにより、関連する構成ファイルがバージョン 7 からバージョン 8 へ自動的にマイグレーションされます。
6. マイグレーション・ウィザードを実行し、旧バージョンのライブラリー・サーバーおよびオブジェクト・サーバーから新しいライブラリー・サーバーおよびリソース・マネージャーに、システム定義とユーザー・データをマイグレーションします。この手順は 31 ページの『第 3 章 データのマイグレーション』で説明されています。

**マイグレーションのプロセスをテストする場合:** ユーザー・データはすべて単一のステップでマイグレーションする必要があります。すべてのシステム定義データを、すべてのユーザー・データと同じウィザード・セッションでマイグレーションする必要はありません。

**最終の、実際のマイグレーションを完了する場合:** データが同期化されるように、システム定義およびユーザー・データはすべて、一度のマイグレーション・セッションでマイグレーションする必要があります。

7. Enterprise Information Portal バージョン 7 のデータベースを Enterprise Information Portal バージョン 8 のシステム管理データベースにマイグレーションするには、「Content Management System の計画とインストール」の手順に従います。Enterprise Information Portal バージョン 7 のデータベースのマイグレーション・プロセスでは、Content Manager バージョン 7 のユーザー、エンティティ、および属性マッピングが、Content Manager バージョン 8 に自動的にマイグレーションされます。
8. マイグレーションの完了したシステムをテストします。システム管理クライアントをオープンして、マイグレーション済みのデータを表示します。Client for Windows をオープンして、照会を実行し、予期していたとおりの結果が得られているかどうかを確認します。
9. オプション: 旧バージョンの Content Manager サーバーを除去します。

## Content Manager バージョン 7 から、バージョン 7 および 8 の両方を 含むシステムへ

表 14. マイグレーション・シナリオ 8 の要約

オリジナルの構成	目的とする構成
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 7 ライブラリー・サーバー	次の共存ライブラリー・サーバー <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 7 のライブラリー・サーバー</li> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバー</li> </ul>
Windows NT 上または AIX 上の Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー	次の共存リソース・マネージャー <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 7 のオブジェクト・サーバー</li> <li>• Windows NT 上または AIX 上のバージョン 8 のリソース・マネージャー</li> </ul>
Content Manager 7 Client for Windows	次の共存クライアント <ul style="list-style-type: none"> <li>• バージョン 7 の Client for Windows</li> <li>• バージョン 8 の Client for Windows</li> <li>• Enterprise Information Portal バージョン 8 統合アプリケーション: eClient またはカスタム</li> </ul>

表 14 に要約されている構成の場合は、データのマイグレーションは不要です。この構成では、既存のデータへのアクセスとその操作には旧バージョンの Content Manager システムを継続して使用することができ、新規データの作成には Content Manager バージョン 8 を使用することができます。

表 14 で要約されているマイグレーションを実行するには、次のステップに従ってください。

1. システムのバックアップをとります。
2. 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンかまたは別のマシンに Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーをインストールします。この手順は「Content Management System の計画とインストール」で説明されています。

バージョン 8 のライブラリー・サーバーは、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにも別のマシンにもインストールすることができます。

- 旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じマシンにインストールする場合には、既存のデータを上書きしないように、以下の注意事項を事前に確認してください。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベースには別の名前を使用します。
  - バージョン 8 ライブラリー・サーバーを別のパスにインストールします。
- バージョン 8 を別のマシンにインストールする場合には、旧バージョンのライブラリー・サーバーと同じオペレーティング・システムにインストールする必要はありません。たとえば、バージョン 6 のライブラリー・サーバーが



Windows NT 上にインストールされている場合でも、AIX 上のバージョン 8 のライブラリー・サーバーにマイグレーションすることができます。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

3. 旧バージョンの各オブジェクト・サーバーと同じマシンかまたは別のマシンに Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーをインストールします。この手順は「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されています。

インストール・プロセス中に、必ずインストール・ウィザードで、必要なバージョン 8 のデータベースを作成してください。以前のデータは上書きされる可能性があるという警告は無視してください。この場合は、はじめてバージョン 8 をインストールするので、この警告は適用されません。

4. 「*Content Management System* の計画とインストール」で説明されているように Content Manager バージョン 8 Client for Windows をインストールします。

システムを構成すると、そのユーザーは該当する Client for Windows を使用して、旧バージョンの Content Manager または Content Manager バージョン 8 のいずれかで保管されているデータに直接アクセスすることができます。ユーザーは、統合アプリケーション (eClient またはカスタム・アプリケーションのいずれか) を使用して、旧バージョンの Content Manager および Content Manager バージョン 8 の両方にわたって同時に統合検索を実行することができます。ただし、eClient もカスタム統合アプリケーションも、Client for Windows の全機能を提供するものではありません。





---

## 第 3 章 データのマイグレーション

データのマイグレーションにはどのような意味があるのでしょうか。データを Content Manager バージョン 8 にマイグレーションする場合、実際のデータ、つまりオブジェクトをマイグレーションするわけではなく、オブジェクトを指しているシステム内のデータをマイグレーションし、それらのオブジェクトの検索に使用する構造を確立します。提供されているマイグレーション・ウィザードを使用して、システム定義データ (ユーザー ID、アクセス制御リスト、および索引クラス定義など) およびユーザー・データ (属性値、項目間の関係 (フォルダーの関係など)、およびチェックアウト状況情報など) をマイグレーションすることができます。

マイグレーション・ウィザードを使用すると、データを Content Manager バージョン 6.1 または Content Manager バージョン 7.1 からマイグレーションすることができます。Content Manager の旧リリースまたは旧製品からマイグレーションする場合、まずその旧リリースまたは旧製品から Content Manager バージョン 6.1 (あれば) または Content Manager バージョン 7.1 にマイグレーションする必要があります。旧リリースから Content Manager バージョン 6.1 へのマイグレーションについては、「計画およびインストールの手引き バージョン 6.1」(GD88-7322-00) を参照してください。旧リリースから Content Manager バージョン 7.1 へのマイグレーションについては、「Content Manager の計画およびインストール バージョン 7.1」(GC88-8742-00) を参照してください。

---

### 準備作業

作業を始める前に、以下の情報を知っておく必要があります。

- マイグレーションは、DB2 Universal Database バージョン 5.2 ランタイム実行可能ファイルと互換性がなく、frn2icml コマンドを実行すると、ライブラリーが欠落していることを示すエラーが表示されます。

マイグレーション・ユーティリティは、DB2 Universal Database バージョン 7.2 を使用してビルドされ、バインドされています。実行している現行バージョンの Content Manager が DB2 Universal Database バージョン 5.2 上にある場合、Content Manager バージョン 8 へマイグレーションするには、最初に DB2 Universal Database バージョン 7.2 へアップグレードする必要があります。

- Content Manager バージョン 8 を現行バージョンの CM と同じマシン上で実行する場合は、最初に DB2 Universal Database のレベルをアップグレードしてから、Content Manager バージョン 8 をインストールし、マイグレーションを行う必要があります。
- Content Manager バージョン 8 を別のマシン上で実行する場合は、DB2 Universal Database バージョン 7.2 と CM バージョン 8 をインストールしてから、マイグレーションを行ってください。その後、DB2 Universal Database バージョン 5.2 マシンから Content Manager バージョン 7 サーバー・データベースのバックアップを行い、それらのデータベースを DB2 Universal Database バージョン 7.2 マシンに復元します。

- データベースに Oracle を使用している場合は、Oracle バージョン 8.1.7.4 (またはそれ以上、バージョン 9 まで)、または Oracle バージョン 9.2.0.1 (またはそれ以降) へアップグレードしてから、マイグレーション・プロセスを開始します。

マイグレーション・ウィザードを実行する前に、次のステップを完了する必要があります。

- 11 ページの『第 2 章 構成ごとのマイグレーション』で説明されているように、使用環境に必要なインストールのステップを実行します。
- 製品 CD-ROM の migrate ディレクトリーに、DB2 と Oracle という 2 つのサブディレクトリーがあります。DB2 ディレクトリーまたは Oracle ディレクトリー (ご使用のデータベースに応じて) とその内容を、インストール CD から旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー上の任意のディレクトリーにコピーします。ライブラリー・サーバーのディレクトリーに対する読み取り / 書き込み権限が必要です。

**要件:** このライブラリー・サーバー・マシンには以下のものがが必要です。

- マイグレーションのために使用可能なスペース。または、十分なスペースのある共用ドライブがマシンに接続されている必要があります。マイグレーション・ウィザードは必要なスペースを見積もります。
  - 旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバーとの DB2 接続。
- 次の必須情報があることを確認してください。

- 以前の Content Manager:
  - ライブラリー・サーバー名
  - ユーザー ID
  - パスワード
- Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーにアクセスするには、次の情報が必要です。
  - ユーザー ID
  - および、それに対応するパスワード

ただし、これらは、バージョン 7 ライブラリー・サーバー・テーブル (DB2 または Oracle 用) を作成した Content Manager バージョン 7 管理ユーザーのものであります。

- Content Manager バージョン 8:
  - ライブラリー・サーバー名
  - 管理ユーザー ID
  - 管理ユーザー ID パスワード
  - スキーマ名

- 旧バージョンの Content Manager システム管理クライアントから、Content Manager にログインしているユーザーがないことを確認します。
- 以下を行い、データ保全性を確保してください。
  - 複製を作成する
  - ステージング域におけるすべてのオブジェクトをデステージする
  - ステージング域をパージする

6. 旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバー、SMS サーバー、およびオブジェクト・サーバーを停止し、マイグレーション中にユーザーがログオンしないようにするとともに、開始しようとしているマイグレーションの外部でオブジェクトがマイグレーションされないようにします。
7. データベース (DB2 Universal Database または Oracle) サーバーが稼働しているかどうかを検証します。
8. システムをバックアップしていることを確認します。

---

## マイグレーション・ウィザードの実行

マイグレーション・ウィザードを実行するには、以下のようになります。

1. 旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバーのコマンド行で、31 ページの『準備作業』のステップ 2 で migrate ディレクトリーの内容をコピーしたディレクトリーに移動します。
2. frn2icml と入力します。
3. マイグレーション・ウィザードのステップ 2 で、以下を行います。
  - a. 以前の Content Manager ライブラリー・サーバーおよびライブラリー・サーバー・データベースに接続するために、適切なユーザー名とパスワードを入力します。
  - b. Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーおよびライブラリー・サーバー・データベースに接続するために、適切なユーザー名とパスワードを入力します。
  - c. データベース・スキーマ名を入力します。
  - d. 「**検証 (Verify)**」をクリックして、以前のライブラリー・サーバーおよびバージョン 8 ライブラリー・サーバーに接続します。

旧バージョンの Content Manager ライブラリー・サーバーとの通信が失敗する場合は、migrate.err ファイルまたはエラーを表示することができます。

さらに、Content Manager バージョン 8 に関連したエラーを、ICM.LOG または ICMSERVER.LOG ファイルで検索できます。ICM.LOG は、マイグレーション・ユーティリティを実行したのと同じディレクトリーに入っています。ICMSERVER.LOG ファイルは、サーバー制御テーブルで指定された位置に置かれます。このメッセージの詳細については、「メッセージおよびコード バージョン 7.1」(SC88-8747-00) を参照してください。

Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーとの通信が失敗する場合は、「**通信状況 (Communication status)**」フィールドに、SQL エラー・メッセージが表示されます。このメッセージの詳細については、「DB2 ユニバーサル・データベース メッセージ解説書」(GC88-8543-00) を参照してください。

許可が失敗する場合は、入力したデータベース・ユーザー名が存在しているか、管理特権を持っているか、入力したパスワードが正しいかを確認してください。

4. 旧バージョンの Content Manager データのなかには、Content Manager バージョン 8 では必要ないものもあります。マイグレーション・ウィザードのステップ 3 で、以下を行います。

- a. 「**レポートの生成 (Generate Report)**」をクリックし、マイグレーションされないデータベース・テーブルのリストを表示します。
- b. レポートにリストされているデータベース・テーブルのバックアップをとります。

このステップの間、ウィザードが (たとえば、以前にこのウィザードを実行した場合は) 既存のマイグレーション・データを検出し、そのデータをどうするかを尋ねるプロンプトが出される場合もあります。ウィザードは、既存のデータを検出するときに問題が生じた場合、再試行できるよう、「**リフレッシュ (Refresh)**」のクリックを求めています。マイグレーション・ユーティリティーは、マイグレーション関連データを Content Manager バージョン 7 ライブラリー・サーバー・データベースから単に削除します。**重要:** このデータの削除を選択した場合は、必ず、マイグレーション済みのすべてのデータを Content Manager バージョン 8 システムから削除してください。

5. マイグレーション・ウィザードのステップ 4 では、マイグレーション・ウィザードの出力の保管場所を指定します。

6. マイグレーション・ウィザードのステップ 5 では、デフォルトのコード・ページおよび言語コードを選択します。

- クライアント・マシンで使用するコード・ページを選択します。正しいコード・ページを選択することにより、クライアント上でテキストの注の正しい表示が保証されます。

- 以前の Content Manager システム管理クライアントでデータ・モデリング・オブジェクトの名前を定義した基本言語コードを選択します。この言語コードは、データ・モデルの作成時に使用されたものであり、したがって、名前とラベルはこの言語で書かれています。正しい言語・コードを選択することにより、データ・モデル名とラベルの正しい表示が保証されます。

7. Content Manager バージョン 8 は、新しいフィーチャーと変更をインプリメンテーションに組み込みます。マイグレーション・ウィザードのステップ 6 で、以下を行います。

- Content Manager バージョン 7.1 の項目名機能を使用していた場合は、以下の事項を考慮して、項目名をマイグレーションするかどうかを決定します。

- Content Manager バージョン 8 は、項目名機能を組み込みません。したがって、このチェック・ボックスを選択した場合、項目名は項目属性としてマイグレーションされます。

- Content Manager 内の項目は、itemname をシステム定義属性としては含んでいません。itemname をマイグレーションすることを選択した場合、マイグレーション・ウィザードは itemname をユーザー定義属性としてすべての項目タイプのルート・コンポーネント内に定義します。Content Manager バージョン 7 からの itemname 値は、その属性内に置かれます。

- マイグレーションするユーザーに対するデフォルトの認可特権セットを選択します。認可特権セット は、ユーザーが新たに作成するユーザーに対して認

できる特権を指定するものです。認可特権セットは、バージョン 8 リリース 2 で新しく導入されました。認可特権セットの詳細については、「システム管理ガイド」を参照してください。

8. ステップ 7 で、それぞれの旧バージョンの Content Manager のオブジェクト・サーバーを Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーでマップします。オブジェクト・サーバーをリソース・マネージャーでマップするには、次のようにします。
  - a. 「オブジェクト・サーバー (Object servers)」リストから、オブジェクト・サーバーを選択します。
  - b. 「リソース・マネージャー (Resource managers)」リストからリソース・マネージャーを選択します。
  - c. 「マップ (Map)」をクリックします。オブジェクト・サーバーを、異なるホスト名のリソース・マネージャーでマップしようとする、ウィザードは先へ進む前に確認を求めてきます。Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー・データを異なるマシン上の Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーへマイグレーションすることを選択した場合は、Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーが Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー・マシン上のオブジェクトにアクセスできるようにするメカニズムを案出する必要があります。

少なくとも、オブジェクト・サーバーと同数のリソース・マネージャーが必要になります。そうでない場合、ウィザードは通知を出し、リソース・マネージャーを追加するか、オブジェクト・サーバーを除去して「リフレッシュ (Refresh)」をクリックするよう求めてきます。

9. 「システム・テーブルのマイグレーション (Migrate System Table)」をクリックして、旧バージョンの Content Manager のシステム定義データをマイグレーションします。このシステム定義データは以下のもので構成されています。
  - 言語定義
  - 特権
  - オブジェクト・サーバー定義
  - コレクション定義
  - ユーザー
  - グループ
  - ACL
  - 属性
  - 索引クラス
  - ビュー
  - ワークバスケット定義
  - ワークフロー定義

マイグレーション・ウィザードは、Content Manager バージョン 8 のストアード・プロシージャを使用して、バージョン 8 のエンティティを作成します。マイグレーション・プロセスのこのステップで発生したエラーを確認するには、Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーのログ・ファイルを参照してください。ログ・ファイルで示されているエラーの詳細については、「メッセージとコード」を参照してください。

10. ウィザードのステップ 9 で、ユーザー・データをマイグレーション用に準備してください。ウィザードは、このマイグレーション・ステップを完了するために必要な時間を見積もります。マイグレーション・ステップが完了するまでには長時間を要する場合があります。また、必ず一度のセッションで完了する必要があります。「**データ・テーブルの作成 (Prepare Data Tables)**」をクリックする前に、Content Manager サーバーを実稼働状態に戻すまでに、マイグレーションを完了するために必要な時間があることを確認してください。

このステップの終わりに、すべてのライブラリー・サーバー・ファイルが単一のライブラリー・サーバー・ディレクトリーに置かれます。すべてのオブジェクト・サーバー・ファイル (それぞれのオブジェクト・サーバー用) は、単一のオブジェクト・サーバー・ディレクトリーに置かれます。(複数のオブジェクト・サーバーが存在する場合は、それぞれのオブジェクト・サーバーごとに別々のディレクトリーが存在します。)
11. マイグレーション・ウィザードのステップ 10 では、「**手順の印刷 (Print Instructions)**」をクリックして、マイグレーションされたデータを、示されたディレクトリーから Content Manager バージョン 8 リリース 2 にインポートするために従うステップを印刷します。
12. 「**終了 (Exit)**」をクリックして、マイグレーション・ウィザードを終了します。

---

## Content Manager バージョン 8 へのウィザード出力のインポート

マイグレーション・ウィザードは、JAR 形式の圧縮データ・ファイルを作成し、それらをウィザードのステップ 3 で指定したディレクトリーに保管します。マイグレーション・ウィザードを実行すると、ライブラリー・サーバー用に 1 つのデータ・ファイルと、オブジェクト・サーバーごとに 1 つのデータ・ファイルが作成されます。マイグレーションを完了するには、以下のステップを実行します。

1. migrate ディレクトリーおよびその内容を、インストール CD から Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバー上の任意のディレクトリーにコピーします。ライブラリー・サーバー上のディレクトリーに対する読み取り / 書き込み権限が必要です。
2. migrate ディレクトリーおよびその内容を、インストール CD から Content Manager バージョン 8 の各リソース・マネージャーの任意のディレクトリーにコピーします。リソース・マネージャーのディレクトリーに対する読み取り / 書き込み権限が必要です。
3. 各 *ServerName.jar* ファイルを適切なサーバーにコピーします。
4. Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーで、この手順のステップ 1 で migrate ディレクトリーの内容をコピーしたディレクトリーに移動します。

**Windows の場合:** これ以降のステップを DB2 コマンド・プロンプトから実行します。

**AIX の場合:** これ以降のステップをコマンド・プロンプトから実行します。

5. データをバージョン 8 ライブラリー・サーバーにインポートするには、以下のように入力します。

```
icmimp1 CM8LSNAME CM8ADMINID CM8ADMINPW
```



この場合、

*CM8LSNAME*

Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバーのデータベースの名前。

*CM8ADMINID*

Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID。

*CM8ADMINPW*

Content Manager バージョン 8 ライブラリー・サーバー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID のパスワード。

オブジェクト・サーバー・データベースのマイグレーションのとき、マイグレーション・ユーティリティは Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー・データベースの中にテーブルを作成し、そのテーブルにデータをロードします。このロード・プロセスでエラーが起きると、テーブル・スペースがロック状態となり、そのテーブル・スペース内にある別のテーブルへのアクセスが拒否される場合があります。このため、この新しいテーブルを別のテーブル・スペース内に作成することをお勧めします。

- Content Manager バージョン 8 の各リソース・マネージャーで、この手順のステップ 2 で migrate ディレクトリーの内容をコピーしたディレクトリーに移動します。
- データをバージョン 8 リソース・マネージャーにインポートするには、以下のように入力します。

```
icmimpo CM7OSNAME CM7OSADMINID CM7OSADMINPW CM7TBLSPACE  
CM8RMNAME CM8RMADMINID CM8RMADMINPW
```

この場合、

*CM7OSNAME*

Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバーの名前。

*CM7OSADMINID*

Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID。

*CM7OSADMINPW*

Content Manager バージョン 7 オブジェクト・サーバー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID のパスワード。

*CM7TBLSPACE*

マイグレーション関連テーブルを置くテーブル・スペース。

*CM8RMNAME*

Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャーの名前。

#### *CM8RMADMINID*

Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID。

#### *CM8RMADMINPW*

Content Manager バージョン 8 リソース・マネージャー・データベース・テーブルを作成するために使用されたデータベース管理者ユーザー ID のパスワード。



---

## 第 4 章 アプリケーションのマイグレーション

IBM Content Manager for Multiplatforms は、より良い機能をユーザーの皆様にご提供するため、絶えず変更および改善されています。

ご使用のアプリケーションを新しい ICM コネクタにマイグレーションする際には、そのアプリケーションにおいて可能な改善について計画および検討するための時間を取ってください。この作業は、次のような改善のためのものです。

- このリリースの新機能を使用して、アプリケーションの効率を上げることができる (高速化できる場合もある)。
- 以前のリリースで使用できなかった機能を、アプリケーションに追加することができる。

---

### フォルダー・マネージャー (C) アプリケーションをマイグレーションするための推奨ステップ

フォルダー・マネージャー API を新しい ICM コネクタに変換する場合は、より階層的な方法をとることができます。たとえば、変換またはマイグレーション・タスクは次の方法で実行することができます。

1. 新しいデータ・モデルについて理解し、それを独自の要件またはタスクの仕様に对应付ける方法を確認します。実行しようとしているタスクを説明するフローチャートまたは概念図を作成します。
2. 現行のアプリケーションを調べて、独自の要件や仕様に適合するように再定義します。これにより、次のような目的のためには、どの部分を現行のアプリケーションと異なる方法でセットアップする必要があるかを確認することができます。
  - アプリケーションの効率を上げる。
  - 以前のバージョンで実現できなかった元の仕様に適合させる。
  - 任意の新しい要件に対応する。
3. 役立つ API のセクションについて、重要なものから順に、または階層に沿って検討します。たとえば、次の順序でアプリケーションの変更に取り組むことができます。
  - a. ログオン、ログオフ、ユーザー特権などの管理用タスクをセットアップする。
  - b. 使用するサーバーを定義する。
  - c. データを処理し、データの作成、検索、更新、削除方法を指定する。
  - d. 項目やオブジェクトを処理し、リンクや属性の利用方法を指定する。
  - e. ロギングおよびその他のオーバーヘッド・タスクを行う。
4. アプリケーションを書き直す際には、40 ページの表 15 から 55 ページの表 23 を参照してください。テーブルには次の情報が示されています。
  - 以前のバージョンで使用していた API と同じか、または類似の使用可能な API
  - 以前にはなかった新機能追加のバージョン

- 以前の機能のサポートの有無
- 「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」のセクションへの参照。これらのセクションには、特定の API (または機能) の詳細が記載されています。

## バージョン 7 (およびそれ以前) の DL コネクター・アプリケーションのマイグレーションに関する推奨事項

新しい Content Manager バージョン 8 ICM コネクターは、Content Manager バージョン 7 DL コネクターの拡張版であり、さまざまな機能強化が組み込まれています。

ICM Datastore には、Content Manager バージョン 8 のサーバーに接続するために必要となるサポート対象クラスがすべて組み込まれています。これには、メタデータ操作を含む、階層項目の処理、バージョン管理、リンク、参照、および照会やカーソル・サポートの概念が採用されており、これらを使用することができます。バージョン 7 用に開発されたアプリケーションを ICM Datastore とともに使用することはできません。Content Manager バージョン 8 の新機能を活用するには、新しいオブジェクト指向 API を使用してアプリケーションを書き直す必要があります。

アプリケーションを書き直す際には、表 15 から 55 ページの表 23 を参照してください。テーブルには次の情報が示されています。

- 以前のバージョンで使用していた API と同じか、または類似の使用可能な API
- 以前にはなかった新機能追加のバージョン
- 以前の機能のサポートの有無
- 「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」のセクションへの参照。これらのセクションには、特定の API (または機能) の詳細が記載されています。

## Content Manager および Enterprise Information Portal 用の API マイグレーション・テーブル

表 15. コンテンツ・サーバー

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
ログオンおよびログオフ	SimLibLogon(); SimLibLogoff();	DKDatastoreDL::connect(); DKDatastoreDL::disconnect();	DKDatastoreICM::connect(); DKDatastoreICM::disconnect();  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続
データ・ソースのリスト	Ip2ListServers();	DKDatastoreDL::listDataSources()	DKDatastoreICM::listDataSources()  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続

表 15. コンテンツ・サーバー (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
オブジェクト・サーバーのリスト、および リソース・マネージャーのリスト	Ip2ListServers();	利用不能	DKRMConfigurationMgmtICM::listResourceMgrs();  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続
イベント・ログ	Ip2WriteHistoryEvent();	利用不能	DKEventMgmtICM  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの計画
セッションのパスワードの更新	Ip2ModifyUser();	DKDatastoreDL::changePassword();	dkDatastore::changePassword();  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続
セッションのユーザー出口の登録	Ip2SetUserExits();	利用不能	利用不能
トランザクションの開始	Ip2StartTransaction();	DKDatastoreDL::startTransaction();	DKDatastoreICM::startTransaction();  関連情報 <sup>3</sup> : トランザクション処理
コミット	Ip2End Transaction (OIM_COMMIT);	DKDatastoreDL::commit();	DKDatastoreICM::commit();  関連情報 <sup>3</sup> : トランザクション処理
ロールバック	Ip2End Transaction(OIM_ROLLBACK);	DKDatastoreDL::rollback();	DKDatastoreICM::rollback();  関連情報 <sup>3</sup> : トランザクション処理
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 16. パラメトリック検索

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
基準に適合する 項目の検索	SimLibSearch(); SimLibGetItemInfo(); SimLibSetIndexClass View(); SimLibGetItemSnapshot(); SimLibGetAffiliatedTOC(); SimLibGetTOC(); Ip2CloseTOC();	DKDatastoreDL::evaluate(); DKDatastoreDL::execute(); DKDatastoreDL:: executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject();	DKDatastoreICM::evaluate(); DKDatastoreICM::execute(); DKDatastoreICM:: executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject();  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>コンテンツ・サーバーの照会</li> <li>結果セット・カーソルの使用</li> <li>コレクションの照会</li> </ul>
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 17. 項目の処理

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
項目のチェックイン 項目のチェックアウト	Ip2CheckInItem(); Ip2CheckOutItem();	DKDatastoreDL::checkIn(); DKDatastoreDL::checkOut();	DKDatastoreICM::checkIn(); DKDatastoreICM::checkOut();  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> トランザクション処理
項目がチェックアウトされているかどうかの判別	SimLibGetItemInfo();	DKDatastoreDL::isCheckedOut();	DKDatastoreICM::isCheckedOut(); DKDatastoreExtICM::isCheckedOut();
新規項目の作成 (インポート)	SimLibCreateItem(); SimLibLoadMediaObject(); SimLibStoreNewObjec(); SimLibStoreObject(); SimLibCreateItemPartExtSrhc(); SimLibInvokeSearchEngine(); SimLibAddFolderItem();	DKDDO::add(); DKDatastoreDL::addObject(ddo);	DKDDO::add(); DKDatastoreICM::addObject(ddo);  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>DDO の処理</li> <li>XML 文書のインポート</li> </ul>

表 17. 項目の処理 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
項目の検索	SimLibGetIndex ClassView(); SimLibSetIndex ClassView(); SimLibGetItem Snapshot(); SimLibGet AffiliatedTOC(); SimLibGetTOC(); Ip2CloseTOC(); SimLibReadAttr(); SimLibGetItem Type();	DKDDO::retrieve(); DKDatastoreDL:: retrieveObject(ddo);	DKDDO::retrieve(); DKDatastoreICM::retrieveObject(ddo);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDO の処理</li> <li>• XDO の処理</li> <li>• DDO の使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
名前によるパーツ 検索	SimLibOpenBy UniqueName(); SimLibSeek Object(); SimLibRead Object();	DKDatastoreDL:: retrieveFormOverlay();	DKDatastoreICM::createDDO(); DKDDO::retrieve();  関連情報 <sup>3</sup> : 項目の検索
DDO の属性の設定 または変更	フォルダー・マネ ージャーでは利用 不能	DKDDO::setData();	DKDDO::setData();  関連情報 <sup>3</sup> : 項目属性の設定および検索

表 17. 項目の処理 (続き)

タスク	フォルダー・ マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
項目の更新	SimLibDelete ItemPartExtSrch(); SimLibDelete Object(); SimLibInvoke SearchEngine(); SimLibUpdate PartExtSrch(); SimLibCreate ItemPartExtSrch(); SimLibLoadMedia Object(); SimLibStoreNew Objec(); SimLibStore Object(); SimLibOpenItem Attr(); SimLibWriteAttr(); SimLibCloseAttr(); SimLibAddFolder Item(); SimLibRemove FolderItem(); SimLibUpdate Object();	DKDDO::update(); DKDatastoreDL:: updateObject(ddo);	DKDDO::update(); DKDatastoreICM::updateObject(ddo);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDO の処理</li> <li>• XDO の処理</li> <li>• DDO の使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
項目の削除	SimLibDeleteItem PartExtSrch(); SimLibDelete Object();	DKDDO::del(); DKDatastoreDL::deleteObject(ddo);	DKDDO::del(); DKDatastoreICM::deleteObject(ddo);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDO の処理</li> <li>• XDO の処理</li> <li>• DDO の使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
パーツまたはリソース項目 (注意や注釈など) の作成	SimLibLoadMedia Object(); SimLibStoreNew Objec(); SimLibStore Object(); SimLibCreateItem PartExtSrch(); SimLibInvoke SearchEngine();	DKBlobDL::add();	DKLobICM::add();  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>

表 17. 項目の処理 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
パーツまたはリソース項目の検索	SimLibGetItem AffiliatedTOC(); SimLibQuery Object(); SimLibOpen Object(); Ip2QueryObject Access(); SimLibClose Object();	DKBlobDL::retrieve();	DKLobICM::retrieve();  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
パーツまたはリソース項目の更新	SimLibUpdate PartExtSrch(); SimLibInvoke SearchEngine();	DKBlobDL::update();	DKLobICM::update();  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
パーツまたはリソース項目の削除	SimLibDeleteItem PartExtSrch(); SimLibDelete Object();	DKBlobDL::del();	DKLobICM::del();  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
ファイルからのオブジェクトのインポート	SimLibCatalog Object(); SimLibCreateItem PartExtSrch(); SimLibStore Object(); SimLibStoreNew Object(); SimLibLoadMedia Object();	DKBlobDL::add(fileName);	DKLobICM::add(fileName);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
ファイルへのパーツのエクスポート	SimLibGetItem AffiliatedTOC(); SimLibOpen Object(); Ip2QueryObject Access(); SimLibClose Object();	DKBlobDL::retrieve(fileName);	DKLobICM::retrieve(fileName);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>

表 17. 項目の処理 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
フォルダーへの項目の追加	SimLibAddFolderItem();	DKFolder::addMember(); DKDatastoreDL::addFolderItem(folder, member);	DKFolder::addMember(); DKDatastoreExtICM:: addToFolder();  関連情報 <sup>3</sup> : カスタム・コンテンツ・サーバー・コネクターの作成
フォルダーからの項目の除去	SimLibRemoveFolderItem();	DKFolder::removeMember(); DKDatastoreDL::removeFolderItem(folder,mbr);	DKFolder::removeMember(); DKDatastoreExtICM::removeFromFolder();  関連情報 <sup>3</sup> : カスタム・コンテンツ・サーバー・コネクターの作成
項目へのパーツの追加、またはリソース項目への項目のリンク	SimLibLoadMediaObject(); SimLibStoreNewObjec(); SimLibStoreObject(); SimLibCreateItemPartExtSrch(); SimLibInvokeSearchEngine();	DKParts::addMember(doc, part);	DKDatastoreExtICM::addLink(link);  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• DKParts 属性の作成および使用</li> <li>• Content Manager アプリケーションの作成</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
項目からのパーツの除去、またはリソース項目からの項目のリンク解除	SimLibDeleteItemPartExtSrch(); SimLibDeleteObject();	DKParts::removeMember(doc, part);	DKDatastoreExtICM::removeLink(link);  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
パーツの SMS 情報の更新	SimLibChangeObjectSMS();	DKBlobDL::setExtension(); DKBlobDL::changeStorage(); DKStorageManageInfoDL クラス	DKLobICM::setExtension(); DKLobICM::changeStorage(); DKStorageManagerInfoICM クラス  関連情報 <sup>3</sup> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• XDO の処理</li> <li>• XDO の使用</li> </ul>
パーツの事前取り出し	SimLibOpenObject(GET_IT_PREFETCH);	DKBlobDL::retrieve(); (オプション GET_IT_PREFETCH を指定)	DKLobICM::retrieve(); (オプション GET_IT_PREFETCH を指定)  関連情報 <sup>3</sup> : オブジェクトの処理
項目間のリンクの定義	利用不能	利用不能	DKLinkCollection::addElement(); DKLinkCollection::addMember(); DKDatastoreExtICM::addLink(link);  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成



表 17. 項目の処理 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
項目間のリンクの削除	利用不能	利用不能	DKLinkCollection::removeElement(); DKLinkCollection::removeMember(); DKDatastoreExtICM::removeLink(link);  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> Content Manager アプリケーションの作成
リンクの検索	利用不能	利用不能	DKDDO::retrieve(); (オプション DKConstant.DK_CM_CONTENT_ LINKS_OUTBOUND + DKConstant.DK_CM_CONTENT_ LINKS_INBOUND を指定)  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• DDO の処理</li> <li>• DDO の使用</li> <li>• 項目間のリンクの定義</li> </ul>
オブジェクトの移動	SimLibOpenIteAttr(); SimLibChangeIndexClass(); SimLibWriteAttr(); SimLibCloseAttr();	DKDatastoreDL::moveObject();	DKDatastoreICM::moveObject();  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> Content Manager アプリケーションの作成
文書の相互参照 (XREF) のリスト	SimLibGetItemXREF();	DKDatastoreDL::listRefFolder();	DKLinkCollection::createInboundIterator(); dkIterator::next();
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>2. Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>3. 関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 18. データ・モデリング

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
索引クラスまたは項目タイプの作成	Ip2CreateClass();	利用不能	DKItemTypeDefICM::add(); または DKComponentTypeDefICM::del();  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> Content Manager アプリケーションの作成

表 18. データ・モデリング (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
索引クラスまたは項目タイプのリスト	SimLibListClasses(); SimLibListClassViews();	DKDatastoreDL::listEntities();	DKDatastoreICM::listEntities();  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続
索引クラスまたは項目タイプの更新	FM では利用不能	利用不能	DKItemTypeDefICM::update(); または DKComponentTypeDefICM::update();  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
索引クラスまたは項目タイプの削除	Ip2DeleteIndex();	利用不能	DKItemTypeDefICM::del(); または DKComponentTypeDefICM::del();  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
属性の定義	Ip2CreateAttr();	利用不能	DKAttrDefICM::add();  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
索引クラスまたは項目タイプの属性のリスト	SimLibGetAttrInfo(); Ip2ListAttrs();	DKDatastoreDL::listAttrs(); DKDatastoreDL::listEntityAttrs(entityName);	DKDatastoreICM::listAttrs(); DKDatastoreICM::listEntityAttrs(entityName);  関連情報 <sup>3</sup> : コンテンツ・サーバーへの接続
属性定義の更新	Ip2ModifyAttr();	利用不能	DKAttrDefICM::update();  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
属性定義の削除	Ip2DeleteAttr();	利用不能	DKAttrDefICM::delete();  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
項目タイプへの属性の追加	利用不能	利用不能	DKItemTypeDef.add(attribute);  関連情報 <sup>3</sup> : Content Manager アプリケーションの作成
索引クラスまたは項目タイプ・ビューの追加	Ip2CreateClass();	利用不能	DKItemTypeViewDefICM::add() または DKComponentTypeViewDefICM::add();  関連情報 <sup>3</sup> : 項目の処理

表 18. データ・モデリング (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
索引クラスまたは項目タイプ・ビューの更新	利用不能	利用不能	DKItemTypeViewDefICM::update() または DKComponentTypeViewDefICM::update(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 項目タイプ・ビューの削除
索引クラスまたは項目タイプ・ビューの削除	Ip2DeleteIndex();	利用不能	DKItemTypeViewDefICM::del() または DKComponentTypeViewDefICM::del(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 項目タイプ・ビューの削除
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 19. ユーザーおよび許可管理機能

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
ユーザーおよびユーザー・グループ定義の追加	Ip2AddUser(); Ip2AddGroup();	DKUserMgmtDL::add();	DKUserMgmtICM::add(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> ユーザーの定義
ユーザーおよびユーザー・グループ定義の更新	Ip2ModifyUser(); Ip2ModifyGroup();	DKUserMgmtDL::update();	DKUserMgmtICM::update(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> ユーザーの定義
ユーザーおよびユーザー・グループ定義の削除	Ip2DeleteUser(); Ip2DeleteGroup();	DKUserMgmtDL::del();	DKUserMgmtICM::del(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> ユーザーの定義
ユーザーとユーザー・グループのアソシエーションの追加	Ip2AddUserToGroup();	利用不能	DKUserGroupDefICM::addUser(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> ユーザーの定義
ユーザーとユーザー・グループのアソシエーションの除去	Ip2RemoveUserFromGroup();	利用不能	DKUserGroupDefICM::removeUser(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> ユーザーの定義

表 19. ユーザーおよび許可管理機能 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
特権セット、または特権グループの定義	Ip2CreatePrivSet();	利用不能	DKAuthorizationMgmtICM::createPrivilege(); DKAuthorizationMgmtICM::createPrivilegeGroup(); DKAuthorizationMgmtICM::add(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 特権の定義
特権セット、または特権グループの更新	Ip2ModifyPrivSet();	利用不能	DKAuthorizationMgmtICM::update(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 特権の定義
特権セット、または特権グループの削除	Ip2DeletePrivSet();	利用不能	DKAuthorizationMgmtICM::del(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 特権の定義
ユーザー特権のリスト	Ip2ListUser();	DKAccessControlDL::listPrivilege();	TBD <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> 特権の定義
ACL の追加	Ip2UpdateAccessList();	DKAccessControlDL::addAccessControlList();	DKAuthorizationMgmtICM::add(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> アクセス制御リスト (ACL) の処理
ACL の更新	Ip2UpdateAccessList();	DKAccessControlDL::updateAccessControlList();	DKAuthorizationMgmtICM::update(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> アクセス制御リスト (ACL) の処理
ACL の削除	Ip2UpdateAccessList();	DKAccessControlDL::deleteAccessControlList();	DKAuthorizationMgmtICM::del(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> アクセス制御リスト (ACL) の処理
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 20. MIME および構成管理

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
MIME 型定義の定義	Ip2AddContentClass2();	DKDatastoreAdminDL::addContentDef()	DKMimeTypeMgmtICM::add(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> オブジェクトの処理

表 20. MIME および構成管理 (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
MIME 型定義の更新	Ip2ModifyContentClass2();	DKDatastoreAdminDL::updateContentDef()	DKMimeTypeMgmtICM::update(); 関連情報 <sup>3</sup> : オブジェクトの処理
MIME 型定義の削除	Ip2DeleteContentClass();	DKDatastoreAdminDL::deleteContentDef()	DKMimeTypeMgmtICM::delete(); 関連情報 <sup>3</sup> : オブジェクトの処理
SMS コレクションの追加	Ip2SMSCreateEntity(SMS_COLLECTION);	利用不能	DKRMConfigurationMgmtICM::addSMSCollection(); 関連情報 <sup>3</sup> : オブジェクトの処理
SMS コレクションの削除	Ip2SMSDeleteEntity(SMS_COLLECTION);	利用不能	DKRMConfigurationMgmtICM::delSMSCollection(); 関連情報 <sup>3</sup> : オブジェクトの処理
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 21. ワークフロー

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
プロセスの開始	Ip2StartWorkFlow();	DKWorkFlowServiceDL::startWorkFlowItem(itemID, itemIDWF, itemIDWB, overload, priority);	DKDocRoutingServiceICM::startProcess(process_name, itemID, priority); 関連情報 <sup>3</sup> : プロセスによる文書のルーティング
プロセスの終了	Ip2CompleteWorkFlow();	DKWorkFlowServiceDL::completeWorkFlowItem(itemID);	DKDocRoutingServiceICM::terminateProcess(workpacket_pid); 関連情報 <sup>3</sup> : プロセスによる文書のルーティング
プロセスの継続	Ip2RouteWipItem();	DKWorkFlowServiceDL::routeWipItem(itemID, itemIDWB, overload, priority);	DKDocRoutingServiceICM::continueProcess(workpacket_pid, selection); 関連情報 <sup>3</sup> : プロセスによる文書のルーティング

表 21. ワークフロー (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
プロセスの中断	Ip2SuspendItem();	利用不能	DKDocRoutingServiceICM::suspendProcess(workpackage_pid, suspend_unit, duration, resume_list); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
プロセスの再開	Ip2ActivateItem();	利用不能	DKDocRoutingServiceICM::resumeProcess(workpacket_pid); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
次の作業項目 (作業リスト) の検索	Ip2GetNextWorkBasketItem();	DKWorkBasketDL::getNextHighPriorityItem();	DKDocRoutingServiceICM::getNextWorkPackagePidString (worklist); DKDocRoutingServiceICM::getNextWorkPackage(worklist); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
作業リスト内のすべての作業のリスト	SimLibGetTOC(); Ip2CloseTOC();	DKWorkBasketDL::listItemIDs(wip_status); DKWorkBasketDL::listWorkManagementInfos (wip_status);	DKDocRoutingServiceICM::listWorkPackagePidStrings(worklist); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
プロセスのリスト	Ip2ListWorkFlows(); Ip2GetWorkFlowInfo();	DKWorkFlowServiceDL::listWorkFlowIDs(); DKWorkFlowServiceDL::listWorkFlows();	DKDocRoutingServiceMgmtICM::listProcessNames(); DKDocRoutingServiceMgmtICM::listProcesses(); DKProcessICM::retrieve(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
作業ノードのリスト	Ip2ListWorkBaskets(); Ip2GetWorkBasketInfo();	DKWorkFlowServiceDL::listWorkBasketIDs(); DKWorkFlowServiceDL::listWorkBaskets();	DKDocRoutingServiceMgmtICM::listWorkNodeNames(); DKDocRoutingServiceMgmtICM::listWorkNodes(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング
作業リストのリスト	Ip2GetWorkBasketInfo();	利用不能	DKDocRoutingServiceMgmtICM::listWorkListNames(); DKDocRoutingServiceMgmtICM::listWorkLists(); <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> プロセスによる文書のルーティング

表 21. ワークフロー (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
作業パッケージの優先順位の設定	Ip2SetWorkBasketItemPriority();	利用不能	DKDocRoutingServiceICM::setWorkPackagePriority();
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			

表 22. テキスト検索サーバー

タスク	フォルダー・マネージャー / テキスト検索エンジン	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
切断されたテキスト検索サーバーへの接続	利用不能	DKDatastoreTS::connect(); DKDatastoreTS::disconnect();	接続はシステムにより暗黙的に自動実行されます。
テキスト検索の実行	利用不能	DKDatastoreTS::evaluate(); DKDatastoreTS::execute(); DKDatastoreTS::executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject();	パラメトリック照会と統合されています。
パーツまたはリソース項目の追加および索引付け	SimLibLoadMediaObject(); SimLibStoreNewObjec(); SimLibStoreObject(); SimLibCreateItemPartExtSrch(); SimLibInvokeSearchEngine();	DKBlobDL::add();	DKTextICM::add();
既存の (テキスト) パーツの索引付け	SimLibIndexPartExtSrch(); SimLibInvokeSearchEngine();	DKBlobDL::setToBeIndexed();	TIEFlag 属性に DKDDO::setData(); を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト検索をオンにする場合は、1 に設定</li> <li>テキスト検索をオフにする場合は、0 に設定</li> </ul> 次に、DKDDO::update(); を実行します。

表 22. テキスト検索サーバー (続き)

タスク	フォルダー・マネージャー / テキスト検索エンジン	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
テキスト検索用索引の作成	利用不能	DKDatastoreTS::createIndex();	DKAttrDefICM クラスおよび DKItemTypeDefICM クラスの setTextSearchable (true) を使用します。テキスト索引のプロパティはデフォルトで割り当てられていますが、DKTextIndexDefICM クラスを使用して指定することもできます。
テキスト検索用索引の削除	利用不能	DKDatastoreTS::deleteIndex();	この機能は、項目タイプが削除されると、システムにより暗黙的に自動実行されます。あるいは属性に setTextSearchable (false) を使用して、次に更新を実行します。
テキスト検索用索引からすべての索引用語を消去	利用不能	DKDatastoreTS::clearIndex();	属性に setTextSearchable (false) を使用して、次に更新を実行します。
テキスト検索用索引に関する情報の取得	利用不能	DKDatastoreTS::getIndexInformation();	DKTextIndexDefICM クラスによって提供されます。
テキスト検索用索引の索引機能状況の取得	利用不能	DKDatastoreTS::getIndexFunctionStatus();	公開されていません。
テキスト検索用索引の索引機能の設定	利用不能	DKDatastoreTS::setIndexFunctionStatus();	公開されていません。
テキスト索引付けプロセスの開始	利用不能	DKDatastoreTS:: startUpdateIndex();	このプロセスは、DKTextIndexDefICM クラスの更新設定に基づいてシステムにより実行されます。
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			



表 23. 結合検索

タスク	フォルダー・マネージャー	DL コネクター <sup>1</sup>	新規 ICM コネクター <sup>2</sup>
パラメトリック基準およびテキスト基準に適合する項目の検索	SimLibSetIndex ClassView(); SimLibSearch(); SimGetItemInfo(); SimLibGet AffiliatedTOC(); SimLibGetTOC();	DKDatastoreDL::evaluate(); DKDatastoreDL::execute(); DKDatastoreDL::executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject(); (この照会は、パラメトリック照会とテキスト照会の組み合わせです。)	DKDatastoreICM::evaluate(); DKDatastoreICM::execute(); DKDatastoreICM:: executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject(); Content Manager バージョン 8 はパラメトリック照会とテキスト照会の組み合わせをサポートします。つまり、一度の照会に、パラメトリック基準とテキスト基準を混在させることができます。  <b>関連情報<sup>3</sup>:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コンテンツ・サーバーの照会</li> <li>• 結果セット・カーソルの使用</li> <li>• コレクションの照会</li> </ul>
パラメトリック、テキスト、およびイメージの各基準に適合する項目の検索	SimLibSetIndex ClassView(); SimLibSearch(); SimGetItemInfo(); SimLibGet AffiliatedTOC(); SimLibGetTOC();	DKDatastoreDL::evaluate(); DKDatastoreDL::execute(); DKDatastoreDL::executeWithCallBack(); dkResultSetCursor::fetchNext(); dkResultSetCursor::fetchObject(); (この照会は、パラメトリック、テキスト、およびイメージの各照会の組み合わせです。)	利用不能
<b>注:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Content Manager バージョン 7 およびそれ以前</li> <li>2. Content Manager バージョン 8 ICM コネクター</li> <li>3. 関連情報については、「ワークステーション・アプリケーション・プログラミング・ガイド」を参照してください。</li> </ol>			



---

## 付録. マイグレーションに関する詳細情報

マイグレーションの詳細については、次の Web サイトにあるレッド・ブック、「*Content Manager Version 8.1 Migration Guide for Multiplatforms*」を参照してください。

<http://www.redbooks.ibm.com/>

このレッド・ブックは、資料名または次の資料番号を検索することによって見つけることができます。

SG24-6877-00

このレッド・ブックの要約を以下に示します。

- マイグレーションに関する考慮事項、マイグレーションの計画、および全体的なマイグレーション・プロセスの概要を示した後、新しいリリースをインストールして既存システムのデータ・マイグレーションを行う手順を詳しく説明しています。Windows と AIX の両方のプラットフォームについて、それぞれのデータ・マイグレーション・ステップがバックグラウンドで何を行っているか、およびシステムとデータがそれによってどのような影響を受けるかについて解説しています。
- 既存のカスタマー・アプリケーションを新しい API へ移植する場合のさまざまな側面について、関連する作業の概要やプログラマー向けの技術情報も含めて説明しています。
- このレッド・ブックは、マイグレーションのための準備が整っている既存の Content Manager システムを継承したユーザーや、マイグレーションを考えていて、その影響や結果としての機能強化について知りたいと考えているユーザーに特に役立ちます。



---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

**以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。**

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation  
J46A/G4  
555 Bailey Avenue  
San Jose, CA 95141-1003  
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

#### 著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、

利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM	DisplayWrite	PowerPC
400	e-business	PTX
Advanced Peer-to-Peer Networking	HotMedia	QBIC
AIX	Hummingbird	RS/6000
AIXwindows	ImagePlus	SecureWay
APPN	IMS	SP
AS/400	Micro Channel	VideoCharger
C Set ++	MQSeries	Visual Warehouse
CICS	MVS/ESA	VisualAge
DATABASE 2	NetView	VisualInfo
DataJoiner	OS/2	WebSphere
DB2	OS/390	
DB2 Universal Database	PAL	

Approach、Domino、Lotus、Lotus 1-2-3、Lotus Notes および SmartSuite は、Lotus Development Corporation の商標です。

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。





## 用語集

この用語集では、このシステムに固有の用語および省略語を定義しています。イタリック の用語は、この用語集の他の箇所で定義されています。

### [ア行]

**アーカイブ (archive).** 長期にわたる情報保存に使用する持続ストレージ。通常、記憶装置は非常に安価で、アクセスは遅く、しばしば、装置障害と自然災害発生時に備え、地理的に異なる場所に保管される。

**アクション・リスト (action list).** システム管理者またはその他のワークフロー・コーディネーターによって定義され、ワークフロー または文書ルーティング・プロセス内でユーザーが実行することを承認されたアクションのリスト。

**アクセサリー・スクリプト (accessory script).** SEARCH、POST、PUT、または DELETE 要求を処理する CGI スクリプト。アクセサリー・スクリプトは、EXEC ディレクティブ上に名前のある CGI スクリプトへ明示的にマップされない要求を処理する。

**アクセス制御 (access control).** 許可ユーザーが、許可された方法でアクセスする場合に限り、特定の機能および保管オブジェクト にアクセスできるようにするプロセス。

**アクセス制御リスト (access control list).** 1 つまたは複数のユーザー ID やユーザー・グループ、およびそれらに関連する特権 で構成されるリスト。アクセス制御リストは、Content Manager システム内の項目 およびオブジェクト に対するユーザー・アクセスを制御する場合に使用する。アクセス制御リストは、Enterprise Information Portal システム内の検索テンプレート に対するユーザー・アクセスを制御する場合に使用する。

**アセット (asset).** アプリケーションにより後で要求される検索のために保管されるデジタル・マルチメディア・リソース。このようなりソースの例には、デジタル・ビデオまたはオーディオ・ファイルがある。アセットは、データ・ポンプ によってサポートされるマルチメディア・ファイル・システム内のファイルとして保管される。

**アセット・グループ (asset group).** 同じ特性を持つマルチメディア・ファイル・システム内での編成グループ。アセット・グループを使用して、データ・ポンプ

のリソースを割り振ることができる。たとえば、セキュリティや請求などの目的でアセットを別々に保管する必要がある別個の部門については、それらの部門に相当する 2 つのアセット・グループを確立することができる。

**圧縮 (compression).** レコードまたはブロックの長さを短くするために、ギャップ、空フィールド、冗長部分、および不必要なデータを除去するプロセス。

**圧縮音声 (compressed audio).** ビデオディスク・フレームにつき数秒の音声品質オーディオをデジタル方式でエンコードおよびデコードする方法。これにより、ストレージ機能が強化され、ビデオディスクごとのオーディオが数時間に増加する。スチル・フレーム・オーディオまたはサウンド・オーバー・スチルとも呼ばれる。

**圧縮ビデオ (compressed video).** コンテンツの正確な表示に必要なデータ量を削減するために、さまざまな種類のコンピューター技法を使用し、ビデオのイメージやセグメントをデジタル方式でエンコードおよびデコードするプロセスから作られるビデオ。

**アドミッション制御 (admission control).** 帯域幅のニーズが新しいアセット要求によって妥協しないことを保証するためにサーバーが使用するプロセス。

**アドレス (address).** ネットワークに接続された各装置またはワークステーションに割り当てられた固有のコード。IP アドレス (IP address) も参照。

**アナログ・ビデオ (analog video).** イメージを表示する情報が、振幅および時間に関して連続的なスケールの電子信号で表されるビデオ。

**アプリケーション・サーバー (application server).** Content Manager のアセットおよび照会を要求するクライアントとの通信を処理するソフトウェア。

**アプリケーション・プログラミング・インターフェース (application programming interface (API)).** アプリケーション相互の通信を可能にするソフトウェア・インターフェース。API はプログラム言語の構造物またはステートメントの集合であり、アプリケーション・プログラム内でコード化することにより、基礎を成すライセンス・プログラムに備えられている特定の機能やサービスを利用することができる。

**イーサネット (Ethernet).** 10-Mbps ベースバンド・ローカル・エリア・ネットワーク。複数の端末が事前の調

整なしに随意に伝送メディアにアクセスすることを可能にし、キャリア・センスおよび遅延処理を使用して競合を回避し、衝突検出および伝送を使用して競合を解決する。

**イテレーター (iterator).** オブジェクトのコレクション全体の各オブジェクトを、一度に 1 つずつ処理するために使用するクラスまたは構成。

**イメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャ (Image Object Content Architecture (IOCA)).** イメージの交換と表示に使用される構成の集合。

**イメージ・コンテンツによる照会 (query by image content (QBIC)).** プレーン・テキストではなく、フィーチャーというビジュアル・コンテンツに基づく検索を可能にする照会のテクノロジー。QBIC<sup>®</sup> を使用して、色、テキストチャーなど、可視特性に基づいてオブジェクトを検索することができる。

**インターネット (Internet).** インターネットのプロトコル・スイートを使用し、公用アクセスを許可する相互接続ネットワークの全世界コレクション。

**インターネット・プロトコル (IP) (Internet Protocol).** インターネット のプロトコル・スイートにおいて、ネットワークまたは内部接続ネットワークを通じてデータを発送し、ハイパー・プロトコル層および物理ネットワーク間の媒介として機能する、コネクションレス・プロトコル。

**イントラネット (intranet).** インターネット 標準およびアプリケーション (Web ブラウザーなど) を、組織の既存コンピューター・ネットワーク基礎構造に組み込む私設ネットワーク。

**インライン (inline).** Content Manager で、オンラインでドライブ中に入っているが、アクティブ・マウント状態ではないオブジェクト。マウント済み (mounted) と対比。

**永続的 ID (persistent identifier (PID)).** 保管場所に関係なくオブジェクト (object) を固有に識別する ID。PID は項目 ID と位置の両方から成る。

**エレメント (element).** リスト・マネージャー がアプリケーションに割り振るオブジェクト。

**エンコード (encode).** 元の形式への再変換ができる方法で、コードを使用してデータを変換すること。

**オーディオ (audio).** ビデオ信号の音声部分。

**オーバーレイ (overlay).** 印刷時にページ上の変数データと組み合わせることができる、事前定義されたデータのコレクション (線、陰影、テキスト、枠、ロゴなど)。

**オブジェクト (object).** 一つの単位として保管、検索、および操作できるデジタル・コンテンツ。たとえば、JPEG イメージ、MP3 オーディオ、AVI ビデオ、およびブックからのテキスト・ブロックなど。

**オブジェクトのリンクと組み込み (Object Linking and Embedding (OLE)).** アプリケーションをリンクしたり埋め込んだりすることで、他のアプリケーションからそのアプリケーションを呼び出せるようにする、Microsoft 社による仕様。

**オブジェクト・サーバー (object server).** リソース・マネージャー (resource manager) を参照。

**オブジェクト・サーバー・キャッシュ (object server cache).** リソース・マネージャー・キャッシュ (resource manager cache) を参照。

## [力行]

**カーソル (cursor).** アプリケーション・プログラムで、行の配列集合中の特定の行を指すために使用される名前付きの制御構造。カーソルは、集合から行を取り出すために使用される。

**解凍 (decompression).** 圧縮したデータを元の状態に復元し、再使用できるようにするプロセス。

**外部データ表現 (External Data Representation (XDR)).** Sun Microsystems, Inc. によって開発された、マシンから独立したフォーマットでデータを表現するための規格。

**解放 (release).** 延期された基準を項目 から除去すること。延期された項目が解放されるのは、基準が満たされた場合か、または適切な権限を持つユーザーが基準をオーバーライドして手操作で解放する場合である。

**拡張データ・オブジェクト (extended data object (XDO)).** アプリケーション・プログラムで、保管されている複雑なマルチメディア・オブジェクト を総称した表現。ストレージから出し入れする際に使用される。XDO は DDO に含まれることが最も多い。

**カテゴリー (category).** 項目タイプ (item type) を参照。

**管理クラス (management class).** API でマイグレーション・ポリシー に使用する用語。

**管理情報ベース (Management Information Base (MIB)).** ネットワーク管理プロトコル の手段によってアクセス可能なオブジェクトの集合。

**キー・フィールド (key field).** 属性 (*attribute*) を参照。

**ギガバイト (gigabyte).** (1) 主記憶装置、実在記憶装置、仮想記憶装置、およびチャネル・ボリュームの場合、 $2^{30}$ 。または 1 073 741 824 バイト。(2) ディスク装置容量および通信ボリュームの場合、1 000 000 000 バイト。

**基数 (cardinality).** データベース・テーブルの行数。

**基本属性 (base attributes).** 個々のオブジェクト に割り当てられる索引の集合。すべての Content Manager オブジェクトは、基本属性 を持つ。

**キャッシュ (cache).** 主記憶装置より小さくて高速の、特別な用途のバッファ。頻繁にアクセスされるデータのコピーを保持するために使用される。キャッシュの使用によりアクセス時間は削減されるが、メモリー要件が増える可能性がある。リソース・マネージャー・キャッシュ (*resource manager cache*) および LAN キャッシュ (*LAN cache*) も参照。

**キャッシング・プロキシ・サーバー (caching proxy server).** 他のサーバーから検索した文書をローカル・キャッシュ 内に保管できるプロキシ・サーバー。したがって、キャッシング・プロキシ・サーバーは、他のサーバーから文書を検索しなくてもそれらの文書に対するその後の要求に答えることができ、このプロセスにより応答時間が向上する。

**クライアント (client).** 一般的にサーバーと呼ばれる、別のコンピューター・システムまたはプロセスのサービスを要求するコンピューター・システムまたはプロセス。複数のクライアントが、単一の共通サーバーへのアクセスを共用することができる。

**クライアント / サーバー (client/server).** 通信において、あるサイトのプログラムが他のサイトのプログラムへ要求を送って応答を待つという、分散データ処理における対話のモデル。要求プログラムがクライアント、応答プログラムがサーバーと呼ばれる。

**クライアント・アプリケーション (client application).** ユーザー・インターフェースをカスタマイズする目的で、Content Manager API を使用して作成されたアプリケーション。Enterprise Information Portal からコンテンツ・サーバー にアクセスする目的で、オブジェクト指向 API またはインターネット API を使用して作成されたアプリケーション。

**クラス (class).** オブジェクト指向の設計やプログラミングで、共通の定義でオブジェクトを作成するようインスタンス化できるモデルまたはテンプレート。したがって、プロパティ、操作、および動作が共通になる。オブジェクトはクラスのインスタンスになる。

**ゲートウェイ (gateway).** 2 つのコンピューター・ネットワークと、複数の異なるネットワーク体系とを内部接続する機能単位。ゲートウェイは、異なる体系のネットワークまたはシステムを接続する。ブリッジは、同じまたは類似した体系を持つネットワークまたはシステムを内部接続する。

**結合検索 (combined search).** パラメトリック、テキスト、またはイメージのいずれかのタイプの検索を 1 つまたは複数組み合わせた照会。

**検索基準 (search criteria).** Content Manager において、保管された項目 を検索するために使用する属性値。Enterprise Information Portal において、管理者が定義する検索テンプレート の特定のフィールド。ユーザー が使用できる選択項目を制限したり定義を詳細化したりする。

**検索テンプレート (search template).** 管理者が設計した検索基準 から成る、特定のタイプの統合検索のフォーム。管理者は、個々の検索テンプレートにアクセスできるユーザー とユーザー・グループ も識別する。

**コーデック (codec).** アナログのオーディオ情報またはビデオ情報を、伝送用のデジタル形式にコード化し、デジタル・データをアナログ形式へデコードすることができる処理プログラム。

**交換 (interchange).** イメージとその索引を 1 つの Content Manager ImagePlus for OS/390 システムから別の ImagePlus<sup>®</sup> システムへ、Common Interchange File (CIF) や Common Interchange Unit (CIU) を利用してインポートまたはエクスポートする機能。

**広帯域 (broadband).** 異なる種類の伝送 (音声、ビデオ、データなど) が同時に生じるように、いくつかの細い帯域へ分割できる周波数帯域。ベースバンド (*baseband*) を参照。

**項目 (item).** Content Manager において、項目タイプのインスタンスを表す総称。たとえば、項目には、フォルダー、文書、ビデオ、またはイメージなどある。Enterprise Information Portal が管理する最小の情報単位を総称した用語。個々の項目には ID がある。たとえば、項目は、フォルダー、または文書 である場合がある。

**項目タイプ (item type).** 項目などを定義して、後に位置決めをするためのテンプレート。ルート・コンポーネント、ゼロ以上の子コンポーネント、および種別で構成される。

**項目タイプ種別 (item type classification).** 項目をさらに識別する項目タイプ内でのカテゴリー化。同じ項目タイプの項目はすべて、同じ項目タイプ種別を持つ。

Content Manager は、次の項目タイプ種別を提供する。フォルダー、文書、オブジェクト、ビデオ、イメージ、およびテキスト。また、ユーザー独自の項目タイプ種別を定義することもできる。

**小型コンピューター・システム・インターフェース (small computer system interface (SCSI)).** さまざまな周辺装置の相互通信を可能にする標準ハードウェア・インターフェース。

**子コンポーネント (child component).** 項目タイプ階層の、オプションの 2 番目以下のレベル。子コンポーネントはそれぞれ、その上のレベルと直接関連付けられている。

**コネクター・クラス (connector class).** 特定のコンテンツ・サーバーに固有の API へ標準アクセスを提供する、オブジェクト指向プログラミングのクラス。

**コモン・ゲートウェイ・インターフェース (Common Gateway Interface (CGI)).** Web サーバーとその外部のプログラムとの間で情報を交換するための規格。外部プログラムを作成する際のプログラム言語は、Web サーバーを実行しているオペレーティング・システムでサポートされているものであればどれでもよい。CGI スクリプト (CGI script) を参照。

**コレクション (collection).** 類似した一連の管理規則を持つオブジェクトのグループ。

**混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (Mixed Object Document Content Architecture (MO:DCA)).** 交換環境中のアプリケーション間や環境間でオブジェクト・データを交換できるように開発された IBM アーキテクチャー。

**混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (Mixed Object Document Content Architecture-Presentation (MO:DCA-P)).** MO:DCA のサブセット・アーキテクチャー。Content Manager ImagePlus for OS/390 ワークステーションに送信される表示用や印刷用の文書を入れるエンベロープとして使用される。

**コンストラクター (constructor).** プログラミング言語では、クラスと同じ名前のメソッドのことであり、そのクラスのオブジェクトの作成と初期化に使用される。

**コンテナ (container).** オブジェクトを保持する、ユーザー・インターフェースの要素。フォルダー・マネージャーでは、他のフォルダーまたは文書を含むことができるオブジェクト。

**コンテンツ・クラス (content class).** MIME タイプ (MIME type) を参照。

**コンテンツ・サーバー (content server).** マルチメディア・データや業務データ、またそのデータの処理に必要な関連メタデータを保管するためのソフトウェア・システム。コンテンツ・サーバーの例としては、Content Manager や Content Manager ImagePlus for OS/390 がある。

**コントローラー (controller).** リソース管理 (ロード・balancing およびアドミッション制御) を行う機能コンポーネント。コントローラーは、1 つまたは複数のデータ・ポンプと通信して、クライアントへの接続の開始および終了を行う。

**コンポーネント (component).** ルート・コンポーネントまたは子コンポーネントの総称。

## [サ行]

**サーバー (server).** ネットワーク上の 1 つまたは複数のクライアントへサービスを提供する機能単位。たとえば、ファイル・サーバー、プリント・サーバー、およびメール・サーバー。

**サーバー定義 (server definition).** Enterprise Information Portal で固有に識別できるようにするための、特定のコンテンツ・サーバーの特性。

**サーバー・インベントリ (server inventory).** 指定されたコンテンツ・サーバーのネイティブ・エンティティおよびネイティブ属性の包括的なリスト。

**サーバー・タイプ定義 (server type definition).** 特定のタイプのカスタム・サーバーが、管理者が識別するように、Enterprise Information Portal でも固有に識別されるために必要な特性のリスト。

**サービス品質 (quality of service (QoS)).** 非同期転送モード 仮想チャネルまたはネットワーク広帯域サービス (NBBS) のネットワーク接続の場合、エンドツーエンド遅延、ジッター、およびパケット損失比率などの一連の通信特性。



**再ストライピング (restriping).** マルチメディア・ファイル・システム 内で使用可能なすべての定義済みディスク全域に、データを再配布およびリバランスすること。これは、通常、修正のためにディスクがファイル・システムから除去されるとき、または新規ディスクがファイル・システム に追加されるときに行われる。

**最大伝送単位 (maximum transmission unit (MTU)).** LAN において、単一フレーム内の特定物理メディア上に送信できる最大限のデータの単位。たとえば、イーサネット の MTU は 1500 バイト。

**作業項目 (work item).** 旧バージョンの Content Manager ワークフローおよび Enterprise Information Portal 拡張ワークフローにおいて、ワークフロー 内でアクティブになっている作業アクティビティ。

**作業状態 (work state).** 個々の作業項目、文書、またはフォルダー の状況。

**作業ステップ (work step).** ワークフロー または文書ルーティング・プロセス 内の離散ポイント。個々の作業項目、文書、またはフォルダー はこの点を通してなくてはならない。

**索引 (index).** 特定の項目 またはオブジェクト を識別する属性値を追加または編集し、これを後から検索できるようにする。

**索引クラス (index class).** 項目タイプ (item type) を参照。

**索引クラス・サブセット (index class subset).** 初期の Content Manager において、アプリケーションがフォルダーおよびオブジェクトの保管、取り出し、表示に使用する索引クラス のビュー。

**索引クラス・ビュー (index class view).** 初期の Content Manager において、索引クラス・サブセット の API で使用する用語。

**サスペンド (suspend).** オブジェクト をワークフローから取り除き、それを活動化させるために必要なサスペンド基準を定義すること。そのオブジェクトを後で活動化させると、処理を再開する。

**サブクラス (subclass).** 別のクラスから派生するクラス。クラスとサブクラスの間に 1 つ以上のクラスがある場合がある。

**参照 (reference).** ルートまたは子コンポーネント と別のルート・コンポーネント との間の単一方向の 1 対 1 の関連。リンク (link) と対比。

**システム管理インターフェース・ツール (System Management Interface Tool (SMIT)).** タスクのインストール、保守、構成、および診断のための AIX オペレーティング・システムのインターフェース・ツール。

**システム管理ストレージ (system-managed storage (SMS)).** Content Manager のストレージ管理の方法。システムによりオブジェクトの位置が判別され、オブジェクトのバックアップ、移動、スペース、およびセキュリティが自動的に管理される。

**集合帯域幅 (aggregate bandwidth).** サーバーまたはサーバー・サブシステムを通して移動する合計スループット。M ビット / 秒で表される。

**周波数カプラー (frequency coupler).**  $F$  カプラー ( $F$ -coupler) を参照。

**照会ストリング (query string).** 照会のプロパティおよびプロパティ値を指定するための文字ストリング。アプリケーションの中で照会ストリングを作成して、照会に渡すことができる。

**小数点付き 10 進表記 (dotted decimal notation).** IP アドレスの構文的表記。4 バイトのアドレスは、ピリオド (ドット) によって分けられた 4 つの 10 進数として書かれる。たとえば、9.37.83.123 など。

**情報交換用米国標準コード (American National Standard Code for Information Interchange (ASCII)).** 7 ビット・コード化文字 (パリティ・チェックを含めて 8 ビット) から成るコード化文字セットを使用する標準コード。データ処理システム、データ通信システム、および関連装置の間での情報交換のために使用される。ASCII セットは、制御文字および図形文字で構成される。

**情報マイニング (information mining).** テキストからの重要な情報の抜粋 (要約)、文書の集合からの主要なテーマの検出 (カテゴリー化)、および強力な柔軟性のある照会を使用した適切な文書の検索を実行するための自動化されたプロセス。

**新磁気ディスク制御機構 (Redundant Array of Independent Disks (RAID)).** 単一ディスク・ドライブのイメージをシステムへ提示する 2 つ以上のディスク・ドライブのコレクション。単一の装置が失敗したときには、配列内の他のディスク装置からデータの読み取りや再生が可能。

**シン・クライアント (thin client).** ソフトウェアがほとんど、またはまったくインストールされていないが、接続先のネットワーク・サーバーで管理され送達されるソフトウェアに対するアクセス権はあるクライアント。

シン・クライアントは、ワークステーションなどの機能の充実したクライアントの代替になる。

**スーパークラス (superclass).** クラスの派生元のクラス。クラスとスーパークラスの間に 1 つ以上のクラスがある場合がある。

**ステー징 (staging).** 保管オブジェクトを、オフラインまたは優先順位の低い装置から、オンラインまたは優先順位の高い装置に戻すためのプロセス。通常はシステムまたはユーザーの要求に基づいて行われる。ユーザーが永続記憶装置に保管されているオブジェクトを要求すると、作業用コピーがステー징域に書き込まれる。

**ステー징域 (staging area).** リソース・マネージャーの作業用ストレージ領域。リソース・マネージャー・キャッシュともいう。

**スティッキー・プール (sticky pool).** 頻繁に使用される対話式ファイルの最初のブロックをキャッシュに入れることができるページ・プールの一部。スティッキー・プール・サイズは、ファイル・マネージャー始動構成パラメーターの 1 つ。

**ストライピング (striping).** 書き込まれるデータを等しいブロックに分割して、ブロックを同時に別のディスク・ドライブに書き込むこと。ストライピングは、ディスクへのパフォーマンスを最大化する。各ディスクから並行に読み込まれてホストで再アセンブルされるブロックとともに、データを逆方向に読み取ることも、並列にスケジュールされている。

**ストライプ幅 (stripe width).** ストライピングのためにデータが分割されてできるブロックのサイズ。

**ストライプ・グループ (stripe group).** メディア・ストリームの処理のために一緒にグループ分けされるディスクのコレクション。マルチメディア・ファイル・システムは、マルチメディア・アセットの送達を最適化するためにストライプ・グループを使用する。

**ストリーム化データ (streamed data).** ネットワーク接続を介して一定の速度で送信されるすべてのデータ。ストリームは、1 つのデータ・タイプまたは複数のタイプの組み合わせである。データ転送率 (ビット / 秒で示される) は、ストリームやネットワークの種類によって異なる。

**ストレージ・クラス (storage class).** オブジェクトが保管されているメディアのタイプを識別する。ストレージクラスは物理的な場所と直接関連付けられてはいないが、デバイス・マネージャーとは直接関連付けられている。ストレージ・クラスには、以下のものがある。

DASD

ハード・ディスク

オプティカル

ストリーム

テープ

TSM

**ストレージ・グループ (storage group).** ストレージ・システムをストレージ・クラスに関連付ける。

**ストレージ・システム (storage system).** Content Manager システム中のストレージを総称した用語。TSM ボリューム (TSM volume)、メディア・アーカイバー (media archiver)、およびボリューム (volume) を参照。

**スループット (throughput).** 特定の時間間隔にネットワーク上で伝送される情報量の測定単位。たとえば、ネットワーク・データ転送速度は、通常、ビット / 秒 (bps) で測定される。スループットは、パフォーマンスの測定単位である。また、Kbps または Mbps の単位でも測定される。

**接続マネージャー (connection manager).** Content Manager コンポーネントの 1 つであり、ライブラリー・サーバーに対する接続を保守するために役立つ。照会ごとに新しい接続を開始するためには使用されない。接続マネージャーには、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) がある。

**セマンティック・タイプ (semantic type).** 項目の使用法または規則。ベース、注釈、および注は、Content Manager によって提供されるセマンティック・タイプ。ユーザーが独自のセマンティック・タイプを定義することもできる。

**装置ドライバー (device driver).** 特定装置の管理に使用するソフトウェア。その他のソフトウェアは、読み取り、書き込み、および制御機能のための装置へのインターフェースとして、装置ドライバーを使用する。

**属性 (attribute).** 項目の一定の特性またはプロパティ (たとえば、名前、アドレス、経過日数など) を記述し、その項目を探し出すために使用できるデータの単位。属性には、その属性によって保管される情報範囲を示すタイプ、およびその範囲内の値が含まれる。たとえば、マルチメディア・ファイル・システム内のファイルについての、タイトル、実行時間、またはエンコード・タイプなどの情報 (MPEG1、H.263 など)。Enterprise Information Portal については、統合属性 (federated attribute) およびネイティブ属性 (native attribute) も参照。

**属性グループ (attribute group).** 1 つ以上の属性 の便宜上のグループ分け。たとえば、住所には、郵便番号、都道府県、市区町村、および番地という属性が含まれる。

## [タ行]

**帯域幅 (bandwidth).** (1) ヘルツ (Hertz) で表される、周波数範囲の最高周波数と最低周波数との差。(2) 非同期転送モード (ATM) において、ピーク・セル・レート (PCR)、平均セル・レート (SCR)、および最大バースト・サイズ (MBS) の用語で表現される、仮想チャネルの容量。(3) データを送るための通信トランスポート・メディア (TV ケーブルなど) の容量の測定単位。

**対話式ビデオ (interactive video).** ユーザーのアクションによって、アプリケーションがとる順序および方向を決定できるように、ビデオとコンピューター・テクノロジーを結合すること。

**抽象クラス (abstract class).** 概念を表すオブジェクト指向プログラミングのクラス。このクラスから派生されるクラスは、概念のインプリメンテーションを表す。抽象クラスのオブジェクトは構成できない。つまり、インスタンス化は不可能。

**データ転送速度 (data transfer rate).** データ伝送システム内の該当する装置間で一定の時間に渡されるビット、文字、またはブロックの平均数。

注:

1. この速度は、秒、分、または時間ごとのビット、文字、またはブロックで表現される。
2. 該当する装置は、指示されている必要がある。たとえば、モデム、中間装置、またはソースおよびシンクなど。

**データ転送率 (data rate).** 装置からデータを伝送または受信する速度。対話式アプリケーションは高いデータ転送率を必要とする傾向にあり、バッチ・アプリケーションは通常、低いデータ転送率で処理することができる。

**データ・ストア (datastore).** (1) データを保管する場所 (データベース・システム、ファイル、ディレクトリーなど) を示す総称用語。(2) アプリケーション・プログラムでは、コンテンツ・サーバー の仮想表現。

**データ・ストライピング (data striping).** 情報がブロック (データの固定量) に分割され、そのブロックがパラレルな一連のディスク間で書き込み / 読み取りされるストレージ・プロセス。

**データ・フォーマット (data format).** MIME タイプ (MIME type) を参照。

**データ・ポンプ (data pump).** データを保持するディスクと、クライアントへアセットを送達するために必要なネットワーキングのハードウェアおよびソフトウェアとの組み合わせ。

**デジタル (digital).** デジタル形式のデータに関する用語。

**デジタル化 (digitize).** アナログのビデオおよびビデオ信号を、デジタル形式に変換すること。

**デジタル化イメージ (digitized image).** スキャン装置またはカメラを使用してデジタル化したカードから取り込まれたイメージ。

**デジタル・オーディオ (digital audio).** アナログ記録技法によってではなく、機械可読 2 進数によって表現されるオーディオ・トーン。

**デジタル・ビデオ (digital video).** 情報 (通常オーディオも含む) が一連の 2 進数としてエンコードされているビデオ。情報は通常、圧縮される。他のデジタル情報と同じように保管および移送することができる。デジタル・ビデオを見るには、ビデオ・データの解凍、アナログ形式へのデータ変換、モニター上でのビデオ表示および増幅器とスピーカーを使用した音声の再生が必要。

**低ビット・レート (low bit rate (LBR)).** インターリーブド H.263/G.723 ストリームの総称用語。低ビット・レート・ストリームは、6.4 Kbps から 384 Kbps までの範囲を持つ。

**デコード (decode).** すでに行われたいくつかのエンコード結果を逆に処理してデータを変換すること。

**デステージャー (destager).** オブジェクトを、ステージング域 からオブジェクトのマイグレーション・ポリシー の第 1 ステップに移動する、Content Manager リソース・マネージャー の機能。

**デバイス・マネージャー (device manager).** Content Manager システムにおいて、リソース・マネージャー と 1 つまたは複数の物理デバイス間のインターフェースのこと。

**伝送制御プロトコル (Transmission Control Protocol (TCP)).** インターネット およびインターネット・プロトコル用の Internet Engineering Task Force (IETF) 規格に従うネットワークで使用される通信プロトコル。TCP は、パケット切り替え通信ネットワーク内のホストと、そのネットワークの内部接続システム内のホスト

との間で、信頼のあるホスト間プロトコルを提供する。これは、インターネット・プロトコルを基礎プロトコルとして使用する。

**伝送制御プロトコル / インターネット・プロトコル (Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)).** インターネット・プロトコル上で稼働する、トランスポートおよびアプリケーションのプロトコルの組。

**トークンリング (token ring).** IEEE 802.5 によれば、メディア付加ステーション間でトークン (特別パケットまたはフレーム) を渡すことによってメディア・アクセスをコントロールするネットワーク・テクノロジー。

**トークンリング・ネットワーク (token-ring network).** トークンが回路内でノードからノードへ渡される、リング・トポロジーを使用するネットワーク。送信準備が整ったノードは、トークンを取り込み、伝送用のデータを挿入することができる。

**統合エンティティ (federated entity).** 統合属性 から成る Enterprise Information Portal メタデータ・オブジェクト。オプションとして統合エンティティは、1 つ以上の統合テキスト索引 と関連付けることもできる。

**統合検索 (federated search).** 1 つ以上のコンテンツ・サーバー (異機種混合でもよい) で、データを同時に検索する Enterprise Information Portal から発行される照会。

**統合コレクション (federated collection).** 統合検索の結果であるオブジェクトのグループ。

**統合属性 (federated attribute).** 1 つ以上のコンテンツ・サーバー でネイティブ属性 にマップされる Enterprise Information Portal メタデータ・カテゴリ。たとえば、統合属性である policy number は、Content Manager では属性 policy num に、Content Manager ImagePlus for OS/390 では属性 policy ID にマップされる。

**統合データ・ストア (federated datastore).** Content Manager などの特定のコンテンツ・サーバー (数は任意) を指す仮想表現。

**統合テキスト索引 (federated text index).** 1 つ以上のコンテンツ・サーバー で 1 つ以上のネイティブ・テキスト索引 にマップされる Enterprise Information Portal メタデータ・オブジェクト。

**等時性 (isochronous).** 指定されて結合された速度で信号を送達する通信能力。音声およびフルモーション・ビデオなどの連続データの場合に望ましい。

**動的データ・オブジェクト (dynamic data object (DDO)).** アプリケーション・プログラムで、ストレージから出し入れされる保管オブジェクトを総称した表現。

**独立型システム (stand-alone system).** Content Manager システムのコンポーネントがすべて 1 つのパーソナル・コンピュータにインストールされるよう事前構成された Content Manager システム。

**特権 (privilege).** 特定のオブジェクト に特定の方法でアクセスする権利。特権には、システムに保管されているオブジェクトの作成、削除、および選択を行う権利が含まれる。特権は、管理者が割り当てる。

**特権セット (privilege set).** システムのコンポーネントや機能を処理するための特権 のコレクション。管理者は特権セットをユーザー (ユーザー ID) およびユーザー・グループ に割り当てる。

**トポロジ (topology).** 通信において、ネットワーク内ノードの物理的または論理的な配置。特に、複数のノード同士の関係とノード間のリンク。

**ドメイン (domain).** データ処理リソースが共通制御の下にあるコンピューター・ネットワークの部分。

**ドメイン・ネーム (domain name).** インターネットのプロトコル・スイートにおける、ホスト・システム名。ドメイン・ネームは、区切り文字で分けられたサブネームのシーケンスで成り立つ。

**ドメイン・ネーム・サーバー (domain name server).** インターネット のプロトコル・スイートにおける、名前からアドレス、アドレスから名前のマッピングやその他の情報のためのクライアントからの照会に応答するサーバー。

## [ナ行]

**ネーム・サーバー (name server).** ドメイン・ネーム・サーバー (domain name server) を参照。

**ネイティブ属性 (native attribute).** 特定のコンテンツ・サーバー 上で管理され、そのコンテンツ・サーバーにとって固有のオブジェクトの特性。たとえば、キー・フィールド policy num は Content Manager コンテンツ・サーバーのネイティブ属性で、フィールド policy ID は Content Manager OnDemand コンテンツ・サーバーのネイティブ属性。

**ネイティブ・エンティティ (native entity).** 特定のコンテンツ・サーバー 上で管理され、ネイティブ属性から成るオブジェクト。たとえば、Content Manager 索



引クラスは、Content Manager キー・フィールド から成るネイティブ・エンティティである。

**ネイティブ・テキスト索引 (native text index).** 特定のコンテンツ・サーバー上で管理されるテキスト項目の索引。たとえば、Content Manager コンテンツ・サーバーに 1 つあるテキスト検索索引など。

**ネットワーク・テーブル・ファイル (network table file).** Content Manager システムのそれぞれのノードのシステム固有の構成情報が含まれているテキスト・ファイル。システムのそれぞれのノードには、ノードを識別し、接続する必要のあるノードのリストを表示するネットワーク・テーブル・ファイルがある。

ネットワーク・テーブルの名前は FRNOLINT.TBL。

## [ハ行]

**パージャー (purger).** オブジェクトをシステムから除去する、リソース・マネージャーの機能。

**パーツ (part).** オブジェクト (object) を参照。

**バイナリー・ラージ・オブジェクト (binary large object (BLOB)).** サイズが 0 バイト ~ 2 ギガバイトの、バイトのシーケンス。このストリングには関連したコード・ページや文字セットはない。イメージ、オーディオ、およびビデオの各オブジェクトは BLOB の形で保管される。

**ハイパーテキスト・マークアップ言語 (Hypertext Markup Language (HTML)).** SGML 規格に準拠したマークアップ言語であり、主に、ハイパーテキスト・リンクを含むテキスト情報とグラフィック情報のオンライン表示をサポートするために設計された。

**バス (bus).** 2 つのエンドポイント間に位置するいくつかの装置の間でデータを転送する機能。ただ 1 つの装置のみが特定時間に転送することができる。

**パターン・マッチング文字 (pattern-matching character).** ワイルドカード文字 (wildcard character) を参照。

**バックグラウンド (background).** 優先順位の低い、非対話式プログラムが実行される状況。

**パッケージ (package).** 関連するクラス (classes) およびインターフェースのコレクション。アクセス保護とネームスペース管理を提供する。

**バッチ (batch).** (1) 処理するデータの累積。(2) 処理または伝送のために集められたレコードまたはデータ処理のジョブのグループ。

**パトロン (patron).** Content Manager API でユーザーに使用する用語。

**パフォーマンス・グループ (performance group).** ファイル・システム・パフォーマンスに影響を与える可能性のある、システム・リソースを共有するファイル・システムのグループ。

**パラメトリック検索 (parametric search).** オブジェクトのプロパティに基づく、オブジェクトの照会。

**ハンドル (handle).** オブジェクトを表す文字ストリング。オブジェクトを検索する場合に使用する。

**ピーク・レート (peak rate).** 特定の時間間隔に記録される最大速度。

**ヒストリー・ログ (history log).** ワークフローの活動履歴を保持するファイル。

**非対称ビデオ圧縮 (asymmetric video compression).** マルチメディア・アプリケーションにおいて、それほどパワフルではないシステムがビデオを解凍できるように、パワフルなコンピューターを使用してビデオを圧縮する。

**ビットマップ (bitmap).** (1) ビット配列によるイメージの表現。(2) 1 ビットの平面の深さを持つピクスマップ。

**ビデオ・オブジェクト (video object).** コンピューターまたはテレビで再生するために記録されたプログラムを含むデータ・ファイル。

**ビデオ・オンデマンド (VOD)(video-on-demand).** 消費者にムービーおよびその他のプログラミングを、要求ごとにほぼ即時に提供するサービス。

**ビデオ・ストリーム (video stream).** VideoCharger サーバー・システムからディスプレイ装置まで読み取るときに、パス・データがたどる。

**ビデオ・ミキシング (video mixing).** 複数のビデオ・オブジェクトを、配布のために単一オブジェクトへ動的に挿入または結合させるプロセス。一例として、サテライト配布のためのコマーシャルと放送プログラムの混合がある。

**非同期転送モード (asynchronous transfer mode (ATM)).** 情報がセルへ編成される転送モード。個人ユーザーからの情報を含んでいるセルの回帰参照が、必ずしも定期的でなくてもよいという点で非同期。ATM は、ATM Forum UNI 3.1 などの国際規格で指定されている。

**表示フォーマッター (presentation formatter).** クライアントへのアセットを選択して提示するために使用するフォームを定義する CGI プログラム。

**ピン (pin).** プログラムがメモリーへロードされた後にページアウトされることを防ぐ。

**ファイアウォール (firewall).** (1) 通信において、あるネットワークから他のネットワークへの接続を保護および制御する機能単位。ファイアウォールは、(a) 保護されたネットワークへ不要または未認証の通信トラフィックが侵入することを防ぎ、(b) 選択した通信トラフィックのみが保護されたネットワークを通るようにする。(2) 装置において、火の広がりやを制御するために使用される区画。

**ファイバー分散データ・インターフェース (Fiber Distributed Data Interface).** 光ファイバー・ケーブルを使用する 100-Mbps LAN 用の米国規格協会 (ANSI) 規格。

**ファイル転送プロトコル (File Transfer Protocol (FTP)).** インターネットのプロトコル・スイートにおいて、伝送制御プロトコル (TCP) および Telnet サービスを使用してマシン間またはホスト間で大量のデータ・ファイルを転送するアプリケーション層プロトコル。

**ファイル名拡張子 (file name extension).** ファイル名の付加部分。ファイル・タイプ (テキスト・ファイル、プログラム・ファイルなど) を識別する。

**ファイル・システム (file system).** AIX で、ハード・ディスクのパーティションを区切ってストレージを作る方法。マルチメディア・ファイル・システム (multimedia file system) も参照。

**ファイル・システム・マネージャー (file system manager).** マルチメディア・ファイル・システムを管理するコンポーネント。

**フィーチャー (feature).** イメージ検索サーバーに格納されたビジュアル・コンテンツ情報。さらに、イメージ検索アプリケーションが突き合わせに使用する可視特性。QBIC フィーチャーには、平均色、ヒストグラム色、定位置色、およびテクスチャーの 4 種類がある。

**フォルダー (folder).** 種別に関係なく、フォルダー・セマンティック・タイプを備えている、任意の項目タイプの項目。フォルダー・セマンティック・タイプを備えたすべての項目には、文書項目またはリソース項目など、項目タイプの種別から使用可能なすべての非リソース項目機能および追加機能のほか、Content Manager が提供する特定のフォルダー機能が格納されている。フ

ォルダーには、文書とサブフォルダーを含む任意のタイプの項目を任意の数だけ格納できる。フォルダーは、属性別に索引付けされる。

**フォルダー・マネージャー (folder manager).** データをオンライン文書およびフォルダーとして管理する Content Manager モデル。フォルダー・マネージャー API は、アプリケーションと Content Manager コンテンツ・サーバーとの間の基本インターフェースとして使用することができる。

**フラグメント (fragment).** ファイル・システムのディスク・スペース割り振りの最小単位。フラグメントのサイズは、512、1024、2048、または 4096 バイトのいずれかである。フラグメント・サイズは、ファイル・システムの作成時に定義される。

**フルモーション・ビデオ (full-motion video).** NTSC 信号の場合は、30 フレーム / 秒 (fps)、PAL 信号の場合は、25 fps の速度のビデオ再生。

**プロキシ・サーバー (proxy server).** 他のサーバーに向けられた要求を受信し、クライアントのかわりに (クライアントのプロキシとして) 要求されたサービスを取得するサーバー。プロキシ・サーバーは、クライアントおよびサーバーが直接接続に非互換である場合によく使用される (たとえば、クライアントがサーバーのセキュリティ認証要件を満たすことができないが、いくつかのサービスを許可されなければならない場合)。

**ブロック (block).** 単位として記録または伝送されるデータ・エレメントのストリング。これらのエレメントは、文字、単語、または物理レコードである場合がある。ディスク装置ドライバーは、現行ではディスクへの書き込みに 32 KB または 256 KB のブロック・サイズを使用する。

**プロトコル (protocol).** ネットワーク管理、データ転送、およびネットワーク・コンポーネント状態の同期化に使用される要求および応答の意味、およびそのための順序付け規則。

**プロトコル・ゲートウェイ (protocol gateway).** ネットワーク外部のユーザーのアクセスから、ビジネス・ネットワーク内のコンピューターを保護するファイアウォールのタイプ。

**プロパティ (property).** オブジェクトの性質に関する説明。プロパティは変更や修正が可能。プロパティの例としては、書体などがある。

**分散コンピューティング環境 (Distributed Computing Environment (DCE)).** ネットワーキングを支援するオープン・ソフトウェア・ファウンデーション (OSF) 仕様 (またはこの仕様から作られた製品)。DCE は、認

証、ディレクトリー・サービス (DS)、およびリモート・プロシージャ・コール (RPC) などの機能を提供する。

**文書 (document).** 単独の単位として、Content Manager システムとユーザーとの間で保管、検索、および交換可能な項目。文書セマンティック・タイプ を備えた項目は、文書を形成する情報を含んでいることを期待されるが、必ずしも Content Manager 文書モデルのインプリメンテーションであることを意味しない。

文書として分類された項目タイプ (Content Manager 文書モデルの特定のインプリメンテーション) から作成された項目は、文書部分を含んでいる必要がある。文書として分類された項目タイプを使用すると、文書セマンティック・タイプまたはフォルダー・セマンティック・タイプを備えた項目を作成できる。

文書部分には、テキスト、イメージ、およびスプレッドシートなど、異なるタイプのコンテンツを含めることができる。

**文書コンテンツ・アーキテクチャー (document content architecture (DCA)).** オフィス・システムのネットワーク内で交換される文書に対して情報の整合性を保証するアーキテクチャー。DCA は、文書の形式と意味を指定するときの規則を提供する。また、変更可能テキスト (変更が可能) と最終形式テキスト (変更が不可) を定義している。

**文書タイプ定義 (document type definition (DTD)).** XML 文書の特定クラスの構造を指定する規則。DTD は、エレメント、属性、および表記とともに構造を定義し、各エレメント、属性、および表記を文書の特定クラス内で使用する方法についての制約を確立する。DTD は、特定のマークアップ言語の構造を完全記述するという点で、データベース・スキーマに類似している。

**文書ルーティング・プロセス (document routing process).** Content Manager において、文書 またはフォルダー が処理の過程で通過する一連の作業ステップおよびそれらのステップを管理する規則。

**文書ルート・ディレクトリー (document root directory).** Web サーバーがアクセス可能文書を保管する基本ディレクトリー。サーバーは、特定ディレクトリーを指示しない要求を受信すると、このディレクトリーから要求を処理しようとする。

**ページ・プール (page pool).** ディスクから読み取られるデータまたはディスクへ書き込まれるデータ用にバッファが割り振られる共用メモリー・セグメント内の領域。ページ・プール・サイズは、ファイル・マネージャー始動構成パラメーターの 1 つ。

**ベースバンド (baseband).** 完全な伝送の帯域幅を使用する周波数帯域。

**別名 (alias).** インターネット において、ホスト・マシン名からサーバーを独立させるために、サーバーに割り当てられる名前。別名は、ドメイン・ネーム・サーバー内で定義されなければならない。

**ヘルツ (Hertz).** サイクル / 秒に等しい周波数の単位。米国では、回線周波数は 60 Hz または電圧極性の変更 120 回 / 秒。欧州では、回線周波数は 50 Hz または電圧極性の変更 100 回 / 秒。

**ポート (port).** データの入り口または出口のための、システムまたはネットワークのアクセス・ポイント。インターネット のプロトコル・スイートにおける、伝送制御プロトコル (TCP) または ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP) と高水準プロトコルまたは高水準アプリケーションとの間の論理結合子。

**ポート・グループ (port group).** 特定のエンド・ユーザー宛先に到達するために使用できる、同じネットワーク・タイプの 1 つまたは複数のポート (ネットワーク装置またはインターフェース) をグループ分けするために使用される論理名。たとえば、VideoCharger サーバー複合内の複数の ATM アダプターが同じ ATM ネットワークに接続されている場合、これらのアダプターは同じポート・グループの下で構成することができる。コントローラーは、必要に応じて、ロードのバランスを取るためにポートを選択する。

**ホーム・ページ (home page).** Web ブラウザーで Web サイトのアドレスを入力したときに、Web サイトによって戻される最初の Web ページ。たとえば、IBM Web サイトのアドレス <http://www.ibm.com> を指定すると、戻される Web ページは IBM ホーム・ページである。本質的に、ホーム・ページは、Web サイトのコンテンツにアクセスするためのエントリー・ポイントである。

**ホスト (host).** ネットワークに接続されたコンピューターであり、そのネットワークへのアクセス・ポイントを提供する。ホストには、クライアント、サーバー、またはクライアントとサーバーが同時になる場合がある。

**ホスト名 (host name).** インターネット のプロトコル・スイートにおける、コンピューターに与えられた名前。ホスト名は、完全修飾ドメイン・ネームを参照することもあれば、完全修飾ドメイン・ネームの最も特有のサブネームを意味するために使用される場合もある。たとえば、[mycomputer.city.company.com](http://mycomputer.city.company.com) が完全修飾ドメイン・ネームである場合、次のいずれかがホスト名として考えられる。

- [mycomputer.city.company.com](http://mycomputer.city.company.com)

• mycomputer

**ボリューム (volume).** システムのオブジェクトが保管されている実際の物理ストレージ装置または物理ストレージ単位を表す。

## [マ行]

**マイグレーション (migration).** (1) コンピューター・システム間でデータを変換せずにデータやソースを移動するプロセス。たとえば、新しい操作環境に移動する場合など。(2) 新しいバージョンまたはリリースのプログラムをインストールして、旧バージョンまたはリリースを置き換えること。

**マイグレーション・ポリシー (migration policy).** ストレージ・クラス間でオブジェクトを移動するための、ユーザー定義のスケジュール。ストレージ階層中のオブジェクトのグループの保存特性やクラス遷移特性を記述する。

**マイグレーター (migrator).** リソース・マネージャーの機能の 1 つで、マイグレーション・ポリシーを検査し、移動されるようスケジュールされているオブジェクトを次のストレージ・クラスに移動する。

**マイクロチャネル・アーキテクチャー (Micro Channel Architecture (MCA)).** サブシステムおよびアダプターがコンピューター内のマイクロチャネル・バスを使用する方法を定義した規則。アーキテクチャーには、各サブシステムが提供可能なまたは提供しなければならないサービスが定義されている。

**マウント (mount).** データ・メディアを操作位置に置くこと。

**マウント済み (mounted).** Content Manager で、オンラインでドライブ中に入っており、アクティブなマウント状態であるオブジェクト。インライン (*inline*) と対比。

**マシン生成データ構造 (machine-generated data structure (MGDS)).** (1) さまざまな Content Manager ImagePlus for OS/390 プログラム間で文字データを渡すための、IBM 構造化データ・フォーマット・プロトコル。(2) イメージから抽出され、汎用データ・ストリーム (GDS) 形式にされたデータ。

**待ち時間 (latency).** 命令制御装置がデータの呼び出しを開始する瞬間と、実際にデータ転送が開始される瞬間との時間間隔。

**マルチキャスト (multicast).** 選択した宛先グループへ同じデータを伝送すること。

**マルチメディア (multimedia).** コンピューターから表示および制御できるように、異なるメディア・エレメント (テキスト、グラフィックス、オーディオ、静止画、ビデオ、アニメーション) を結合すること。

**マルチメディア・ファイル・システム (multimedia file system).** ビデオおよびオーディオの保管および送達用に最適化されたファイル・システム。

**メソッド (method).** Java 設計とプログラミングで、操作によって指定される動作が実装されたソフトウェア。C++ におけるメンバー関数と同義。

**メディア・アーカイバー (media archiver).** オーディオおよびビデオのストリーム・データの保管に使用する物理装置。VideoCharger はメディア・アーカイバーの一種である。

**メディア・サーバー (media server).** Content Manager システムの AIX に基づくコンポーネント。ビデオ・ファイルを保管し、これらのファイルにアクセスするときに使用する。

**モーション JPEG (Motion JPEG).** アニメーションに使用される。

**目録 (table of contents (TOC)).** フォルダーまたはワークバスケットに入れられた、文書およびフォルダーのリスト。検索の結果は、フォルダーの目録として表示される。

## [ヤ行]

**ユーザー (user).** Content Manager のサービスが必要な人。通常この用語は、アプリケーションの開発者ではなく、Content Manager API を使用するクライアント・アプリケーションの使用者を指す。Enterprise Information Portal では、Enterprise Information Portal 管理プログラム内で識別される人すべて。

**ユーザー出口 (user exit).** IBM 提供のプログラムのうち、ユーザー出口ルーチンが制御を受け取ることができる場所。

**ユーザー出口ルーチン (user exit routine).** 事前定義のユーザー出口で制御を受け取るユーザー作成ルーチン。

**ユーザー・グループ (user group).** 1 つ以上の定義済み個別ユーザーから成るグループ。単一グループ名によって識別される。

**ユーザー・データグラム・プロトコル (UDP).** インターネットのプロトコル・スイートにおける、信頼できない、コネクションレスのデータグラム・サービスを提



供するプロトコル。これにより、1 つのマシンまたはプロセス上のアプリケーション・プログラムは、別のマシンまたはプロセス上のアプリケーション・プログラムヘデータグラムを送ることができる。UDP は、インターネット・プロトコル を使用してデータグラムを送達する。

**ユーザー・マッピング (user mapping).** Enterprise Information Portal のユーザー ID とパスワードを、1 つ以上のコンテンツ・サーバー中の対応するユーザー ID とパスワードに関連付けること。ユーザー・マッピングにより、Enterprise Information Portal と複数のコンテンツ・サーバー にシングル・ログオンすることができる。

**ユーティリティー・サーバー (utility server).** データベース・ユーティリティーによって、スケジューリング用に使用される Content Manager コンポーネント。リソース・マネージャー またはライブラリー・サーバー の構成時に、ユーティリティー・サーバーを構成する。ユーティリティー・サーバーの数は、リソース・マネージャー およびライブラリー・サーバー当たり 1 つである。

**要求 (request).** Web アドレスの一部で、プロトコルおよびサーバーのホスト名 に続く。たとえば、アドレス `http://www.server.com/rfoul/sched.htm` では、要求は `/rfoul/sched.html` となる。

## 【ラ行】

**ライブラリー・オブジェクト (library object).** 項目 (item) を参照。

**ライブラリー・クライアント (library client).** ライブラリー・システムに低レベルのプログラミング・インターフェースを提供する Content Manager システムのコンポーネント。ライブラリー・クライアントには、ソフトウェア開発者キットの一部を成す API が含まれている。

**ライブラリー・サーバー (library server).** 項目 上の照会を保管、管理、および処理する Content Manager システムのコンポーネント。

**ランク (rank).** 指定されたパーツと照会結果の関係を示す整数値。ランクが高いほど一致の度合いが高い。

**ラン・レングス・エンコード (Run-Length Encoding (RLE)).** ラン (runs) と呼ばれる繰り返されて隣接した文字または記号のストリングに基づく圧縮 のタイプ。

**リアルタイム (real time).** 結果を非常に迅速に戻すために対話が瞬時のように見える情報の処理。

**リソース交換ファイル・フォーマット (Resource Interchange File Format (RIFF)).** 異なるタイプのコンピュータ装置上で再生する音またはグラフィックスを保管するために使用する。

**リソース・マネージャー.** オブジェクト を管理する Content Manager システム。これらのオブジェクトは、ライブラリー・サーバー 上に保管された項目 によって参照される。

**リソース・マネージャー・キャッシュ (resource manager cache).** リソース・マネージャー の作業用ストレージ領域。スレーシング域 ともいう。

**リバランス (rebalance).** 1 つまたは複数のディスクがファイル・システム から除去された後に、使用可能なハード・ディスク全域にデータを再ストライプおよび再配布すること。

**リモート・プロシージャー・コール (remote procedure call (RPC)).** (1) サーバーからのプロシージャー呼び出しの実行を要求するためにクライアントが使用する機能。この機能には、プロシージャーのライブラリーおよび外部データ表現が含まれる。(2) 別のノード内に位置するサービス・プロバイダーへのクライアント要求。

**リモート・メソッド呼び出し (Remote Method Invocation (RMI)).** プログラミングを分散できる API の集合。ある Java 仮想計算機 (JVM) 中のオブジェクトが、別の JVM 中のオブジェクトのメソッドを呼び出すことができる。

**リンク (link).** ソースおよびターゲットの 2 つの項目の間の指示関係。一連のリンクを使用して、1 対多の関連を作ることができる。参照 (reference) と対比。

**ルート・コンポーネント (root component).** 関連システム定義およびユーザー定義の属性 から構成される、項目タイプ 階層の第 1 レベルまたは唯一のレベル。

**レンダリング (render).** 通常であればイメージとは無関係なデータを、イメージとして捕らえて表示すること。Content Manager では、ワープロ文書を表示する目的で、それをイメージとしてレンダリングできる。

**ローカル・エリア・ネットワーク (local area network (LAN)).** 一連の装置が通信のため相互に接続されたネットワークで、より大規模なネットワークへ接続することも可能。

## [ワ行]

**ワークバスケット (workbasket).** 処理実行中または処理待機中の文書 またはフォルダー のコレクション。ワークバスケットの定義には、そのコンテンツの表示、状況、およびセキュリティを管理する規則が含まれている。

**ワークフロー (workflow).** 旧バージョンの Content Manager において、文書 またはフォルダー が処理の過程で通過する一連のワークバスケット。Enterprise Information Portal において、作業パケット、文書、またはフォルダー が処理の過程で通過する一連の作業ステップ およびそれらのステップを管理する規則。

たとえば、保険料請求の承認では、個々の保険請求が承認を受けるために経なければならないプロセスを記述する。

**ワークフローの状態 (workflow state).** ワークフロー全体の状態。

**ワークフロー・コーディネーター (workflow coordinator).** 旧バージョンの Content Manager で、ワークフロー 内の作業項目 が、指定されている時間内に処理されなかったという通知を受け取るユーザー。このユーザーは、特定のユーザー・グループ に関して選択されるか、またはワークフローの作成時に選択される。

**ワーク・パケット (work packet).** Enterprise Information Portal バージョン 7.1 において、ある場所から別の場所に経路指定される文書 のコレクション。ワーク・リスト を介してワーク・パケットにアクセスして処理する。

**ワーク・リスト (worklist).** ユーザーに割り当てられた作業項目、文書、またはフォルダー の集合。

**ワールド・ワイド・ウェブ (World Wide Web).** プログラムおよびファイルを含む複数のサーバーのネットワーク。それらのファイルの多くに、ネットワークを通じて使用可能なその他の文書へのハイパーテキスト・リンクが含まれる。

**ワイルドカード文字 (wildcard character).** アスタリスク (\*) または疑問符 (?) などの特殊文字。1 つまたは複数の文字を表現するために使用することができる。文字または文字セットをワイルドカード文字に置き換えることができる。

## A

**ADSM.** *Tivoli® Storage Manager* を参照。

**API.** アプリケーション・プログラミング・インターフェース (*application programming interface*) を参照。

**ASCII.** 情報交換用米国標準コード (*American National Standard Code for Information Interchange*) を参照。

**AV サブシステム (AVS) (Audio-Video Subsystem (AVS)).** ビデオおよびオーディオのデータ、ビデオのみのデータ、オーディオのみのデータ、またはイメージ・データ (単一静止画) を含めることができるファイル用のファイル・フォーマット。AV サブシステム (AVS) フォーマットは、ActionMedia II MMPM/2 メディア制御インターフェースによってサポートされる。

**AVI.** *AVI (Audio Video Interleaved)* を参照。

**AVI (Audio Video Interleaved).** オーディオ・データおよびビデオ・データをファイルにインターリーブすることができる RIFF (リソース交換ファイル・フォーマット) ファイル仕様。分離トラックには、ファイル装置上の連続アクセスを保持しながら、再生や記録用の代替チャンク内でアクセス可能。

**AVS.** AV サブシステム (AVS) (*Audio-Video Subsystem*) を参照。

## B

**BLOB.** バイナリー・ラージ・オブジェクト (*binary large object*) を参照。

## C

**CGI.** コモン・ゲートウェイ・インターフェース (*Common Gateway Interface*) を参照。

**CGI スクリプト (CGI script).** Web サーバー上で稼働するコンピューター・プログラムであり、コモン・ゲートウェイ・インターフェース (*CGI*) を使用して、通常は Web サーバーでは行われないタスク (データベース・アクセスやフォーム処理など) を実行する。CGI スクリプトは、Perl などのスクリプト記述言語で書かれた CGI プログラムである。

**CIF.** *Common Interchange File (CIF)* を参照。

**CIU.** *Common Interchange Unit (CIU)* を参照。

**Client Application for Windows.** Content Manager が備えている完全なオブジェクト管理システム。Content Manager API で書かれている。文書とフォルダーの作成、保管、表示、処理、およびアクセス制御をサポートする。ユーザー出口ルーチンを使用してカスタマイズでき、API を使用して部分的に起動することができる。

**Common Interchange File (CIF).** ImagePlus Interchange Architecture (IPIA) データ・ストリームを 1 つ含んでいるファイル。

**Common Interchange Unit (CIU).** Common Interchange File (CIF) で使用される、独立した転送単位。これは CIF の一部であり、受信データベースとの関係を示している。1 つの CIF に CIU が複数含まれることもある。

## D

**DCA.** 文書コンテンツ・アーキテクチャー (*document content architecture*) を参照。

**DCE.** 分散コンピューティング環境 (*Distributed Computing Environment*) を参照。

**DDO.** 動的データ・オブジェクト (*dynamic data object*) を参照。

**DTD.** 文書タイプ定義 (*document type definition*) を参照。

## F

**F カプラー (周波数カプラー) (F-Coupler (frequency coupler)).** シールドされた対より線配線を使用して、広帯域アナログ信号と IBM 配線システム上のデジタル・データをマージする物理装置。IBM F カプラーはアナログ信号を分離し、それらを IBM 配線システムからワークステーションへ送信する。F カプラーによって、IBM 配線システムはトークンリング・ネットワーク上でデータ・トラフィックを使用した同時アナログ・ビデオを提供することができる。

**FDDI.** ファイバー分散データ・インターフェース (*Fiber Distributed Data Interface*) を参照。

**fps.** 1 秒間のフレーム。1 秒間に表示されるフレーム数。

**FTP.** ファイル転送プロトコル (*File Transfer Protocol*) を参照。

## G

**GB.** ギガバイト (*gigabyte*) を参照。

## H

**HTML.** ハイパーテキスト・マークアップ言語 (*Hypertext Markup Language*) を参照。

**HTTP (Hypertext Transfer Protocol).** インターネットのプロトコル・スイートにおいて、ハイパーテキスト文書の転送および表示のために使用されるプロトコル。

**HTTP デーモン (HTTP daemon).** 着信の HTTP 要求を受信する、マルチスレッドの Web サーバー。

**HTTP メソッド (HTTP method).** HTTP によって使用されるアクション。HTTP メソッドには、GET、POST、および PUT が含まれる。

**HTTPd.** HTTP デーモン (*HTTP daemon*) を参照。

**Hz.** ヘルツ (*Hertz*) を参照。

## I

**i ノード (i-node).** AIX オペレーティング・システムにおいて、オペレーティング・システム内の個人ファイルを記述する内部構造。ファイルごとに 1 つの i ノードがある。i ノードには、ノード、タイプ、所有者、およびファイルの位置が含まれる。i ノードのテーブルは、ファイル・システムの始めの方に保管される。

**I フレーム (情報フレーム) (I frame (information frame)).** ビデオ圧縮において、他のどのフレームからも独立して圧縮されたフレーム。参照フレーム、イントラ・フレーム、またはスチル・フレームともいう。

**IOCA.** イメージ・オブジェクト・コンテンツ・アーキテクチャー (*Image Object Content Architecture*) を参照。

**IP.** インターネット・プロトコル (*Internet Protocol*) を参照。

**IP アドレス (IP address).** インターネット上の各装置またはワークステーションの実際の位置を指定する固有の 32 ビットのアドレス。アドレス・フィールドには 2 つの部分が含まれ、最初の部分はネットワーク・アドレス、2 つ目の部分はホスト番号である。たとえば、9.67.97.103 が IP アドレスの一例。

**IP マルチキャスト (IP multicast).** 単一マルチキャスト・グループを形成する一組のシステムへのインターネット・プロトコル (IP) データグラムの伝送。マルチキャスト (*multicast*) を参照。

**ISO-9660.** CD-ROM 上のファイル用フォーマット。DOS で使用される。

## J

**JavaBeans™.** Bean と呼ばれる再使用可能な Java コンポーネントを作成するための、プラットフォーム非依存型のソフトウェア・コンポーネント・テクノロジー。これらの Bean は、作成後、他のソフトウェア・エンジニアが使用したり、Java アプリケーション内で使用したりすることができる。JavaBeans を使用して、ソフトウェア・エンジニアはグラフィカルなドラッグ・アンド・ドロップ型の開発環境で Bean の操作やアセンブルを行うことができる。

**Joint Photographic Experts Group (JPEG).** (1) デジタル化連続トーン・イメージの圧縮についての規格を定めたグループ。(2) このグループによって開発された静止画の規格。

**JPEG.** *Joint Photographic Experts Group* を参照。

## K

**K バイト (kilobyte).** (1) 主記憶装置、実在記憶装置、仮想記憶装置、およびチャネル・ボリュームの場合、2 の 10 乗、または 1024 バイト。(2) ディスク装置容量および通信ボリュームの場合、1000 バイト。

**K ビット (kilobit).** (1) 主記憶装置、実在記憶装置、仮想記憶装置、およびチャネル・ボリュームの場合、2 の 10 乗、または 1024 ビット。(2) ディスク装置容量および通信ボリュームの場合、1000 ビット。

**KB.** *K バイト (Kilobyte)* を参照。

**Kb.** *K ビット (Kilobit)* を参照。

**Kbps.** 1 秒間の *K ビット (Kilobits)*。

## L

**LAN.** ローカル・エリア・ネットワーク (*local area network*) を参照。

**LAN キャッシュ (LAN cache).** リモートのリソース・マネージャーに保管されているオブジェクトのコピーを入れる、ローカルのリソース・マネージャーの一時記憶域。

**LBR.** 低ビット・レート (*low bit rate*) を参照。

## M

**M バイト (megabyte).** (1) 主記憶装置、実在記憶装置、仮想記憶装置、およびチャネル・ボリュームの場

合、2 の 20 乗、または 1 048 576 バイト。(2) ディスク装置容量および通信ボリュームの場合、1 000 000 バイト。

**M ビット (megabit).** (1) 主記憶装置、実在記憶装置、仮想記憶装置、およびチャネル・ボリュームの場合、2 の 20 乗、または 1 048 576 ビット。(2) ディスク装置容量および通信ボリュームの場合、1 000 000 ビット。

**MB.** *M バイト (megabyte)* を参照。

**Mb.** *M ビット (megabit)* を参照。

**Mbps.** 1 秒間の *M ビット (Megabits)*。

**MCA.** マイクロチャネル・アーキテクチャー (*Micro Channel architecture*) を参照。

**MGDS.** マシン生成データ構造 (*machine-generated data structure*) を参照。

**MIB.** 管理情報ベース (*Management Information Base*) を参照。

**MIB 変数 (MIB variable).** 管理情報ベースで定義された管理下のオブジェクト。管理下のオブジェクトは、テキストの名前および対応するオブジェクト ID、構文、アクセス・モード、状況、および管理下のオブジェクトのセマンティクスの記述によって定義される。MIB 変数には、アクセス・モードで定義されたように、アクセス可能な直接関係のある管理情報が含まれる。

**MIDI.** *Musical Instrument Digital Interface* を参照。

**MIME タイプ (MIME type).** インターネット上で転送されるオブジェクトのタイプを識別するためのインターネット規格。MIME タイプには、さまざまな種類のオーディオ、イメージ、およびビデオが含まれる。オブジェクトごとに 1 つの MIME タイプがある。

**Moving Pictures Expert Group (MPEG).** (1) モーション・ビデオおよびアニメーションをデジタル形式に圧縮および保管するための規格の確立を研究しているグループ。(2) このグループが開発中の規格。

**MO:DCA.** 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー (*Mixed Object Document Content Architecture*)

**MO:DCA-P.** 混合オブジェクト文書コンテンツ・アーキテクチャー・プレゼンテーション (*Mixed Object Document Content Architecture—Presentation*)

**MPEG.** *Moving Pictures Expert Group* を参照。



**MTU.** 最大伝送単位 (*maximum transmission unit*) を参照。

**Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME).**  
*MIME* タイプ (*MIME type*) を参照。

**Musical Instrument Digital Interface (MIDI).** シンセサイザーが信号を他のシンセサイザーまたはコンピューターに送ったり、コンピューターから楽器に送ったり、コンピューターから他のコンピューターに送ったりすることを可能にするプロトコル。

**M-JPEG.** モーション *JPEG* (*Motion JPEG*) を参照。

## N

**National Television Standard Committee (NTSC).**  
(1) 米国において (現在は日本でも採用) カラーのテレビ放送およびビデオの規格を設定する委員会。(2) NTSC 委員会が設定する規格。

**NTSC.** *National Television Standard Committee* を参照。

## O

**OLE.** オブジェクトのリンクと組み込み (*Object Linking and Embedding*) を参照。

## P

**PAL.** *PAL* (*Phase Alternation by Line*) を参照。

**PAL (Phase Alternation by Line).** フランスおよび元ソビエト連邦の国外の欧州ビデオのテレビ放送規格。

**PCI.** *Peripheral Component Interconnect* を参照。

**Peripheral Component Interconnect (PCI).** バス (*bus*) ・アーキテクチャーのタイプ。

**PID.** 永続的 ID (*persistent identifier*) を参照。

## Q

**QBIC.** イメージ・コンテンツによる照会 (*query by image content*) を参照。

## R

**RAID.** 新磁気ディスク制御機構 (*Redundant Array of Independent Disks*) を参照。

**README ファイル (README file).** プログラムをインストールして実行する前に参照しなければならない、そのプログラムに関連付けられたファイル。README ファイルには、通常、最新の製品情報、インストール情報、または製品使用に関してのヒントが含まれる。

**Real-Time Transport Protocol (RTP) .** マルチキャスト またはユニキャスト・ネットワークの各サービス上で、オーディオ、ビデオ、またはシミュレーション・データなどのリアルタイム・データを伝送するアプリケーションに適した、エンドツーエンド・ネットワーク・トランスポート機能を提供するプロトコル。

**ReSerVation プロトコル (ReSerVation Protocol).**  
統合サービス・インターネット 用に設計された、リソース予約セットアップ・プロトコル。このプロトコルは、マルチキャスト およびユニキャストのデータ・フロー用に、受信者開始のリソース予約セットアップを提供する。

**RIFF.** リソース交換ファイル・フォーマット (*Resource Interchange File Format*) を参照。

**RLE.** ラン・レングス・エンコード (*Run-Length Encoding*) を参照。

**RMI サーバー (RMI server).** Java リモート・メソッド呼び出し (*RMI*) 分散オブジェクト・モデルをインプリメントしたサーバー。

**RPC.** リモート・プロシージャ・コール (*remote procedure call*) を参照。

**RSVP.** *ReSerVation* プロトコル (*ReSerVation Protocol*) を参照。

**RTP.** *Real-Time Transport Protocol* (*RTP*) を参照。

## S

**SCSI.** 小型コンピューター・システム・インターフェース (*small computer system interface*) を参照。

**Simple Network Management Protocol (SNMP).** インターネット のプロトコル・スイートにおいて、ルーターおよび付加ネットワークのモニターのために使用されるネットワーク管理プロトコル。SNMP は、アプリケーション層プロトコルである。管理される装置上の情報は、アプリケーションの管理情報ベース に定義および保管される。

**SMIT.** システム管理インターフェース・ツール (*System Management Interface Tool*) を参照。

**SMS.** システム管理ストレージ (*system-managed storage*) を参照。

**SNMP.** *Simple Network Management Protocol* を参照。

## T

**TCP.** 伝送制御プロトコル (*Transmission Control Protocol*) を参照。

**TCP/IP.** 伝送制御プロトコル / インターネット・プロトコル (*Transmission Control Protocol/Internet Protocol*) を参照。

**TIFF.** *TIFF (Tagged Image File Format)* を参照。

**TIFF (Tagged Image File Format).** 高品質グラフィックスを保管するためのファイル・フォーマット。

**Tivoli Storage Manager (TSM).** 異種環境でのストレージ管理とデータ・アクセス・サービスを備えたクライアント / サーバー 製品。さまざまな通信メソッドをサポートし、ファイルのバックアップとストレージを管理する機能を備え、バックアップ操作のスケジューリング機能を備えている。

**TOC.** 目録 (*table of contents*) を参照。

**TSM.** *Tivoli Storage Manager* を参照。

**TSM volume.** *Tivoli Storage Manager* によって管理される論理ストレージ域。

## U

**UDP.** ユーザー・データグラム・プロトコル を参照。

**uniform resource locator (URL).** コンピューター上、またはインターネットなどのネットワーク内の情報リソースを表現する文字列。この文字列には、情報リソースにアクセスするために使用されるプロトコルの省略名、および情報リソースを見つけるためにプロトコルによって使用される情報が含まれている。たとえば、インターネットのコンテキストでは、さまざまな情報リソースにアクセスするために使用されるプロトコルの省略名として、`http`、`ftp`、`gopher`、`telnet`、および `news` がある。

## V

**VOD.** ビデオ・オンデマンド (*Video-on-demand*) を参照。

## W

**WAIS.** *Wide Area Information Service (WAIS)* を参照。

**WAV.** 記録された音をデジタルに保管するフォーマット。

**Web サーバー.** インターネット に接続され、Web ページのサービス提供専用のサーバー。

**Wide Area Information Service (WAIS).** クライアントが WWW 上で文書を検索できるネットワーク情報システム。

**WWW.** ワールド・ワイド・ウェブ (*World Wide Web*) を参照。

## X

**XDO.** 拡張データ・オブジェクト (*extended data object*) を参照。

**XML.** *Extensible Markup Language* を参照。

**XML (Extensible Markup Language).** SGML から派生した、SGML のサブセットである、マークアップ言語を定義するための標準メタ言語。XML は、SGML の複雑であり使用されない部分を省略したものであり、さまざまなコンピューター・システム間で文書タイプの処理、構造情報の作成および管理、ならびに構造化情報の伝送および共用を行うためのアプリケーションを非常に容易に作成することができる。XML を使用すると、耐久力のあるアプリケーションおよび SGML に必要な処理が不要となる。XML は、World Wide Web Consortium (W3C) の賛助で開発されている。

---

## 参照文献

### IBM AIX 5L

- *System Management Concepts: Operating System and Devices*
- *System Management Guide: Operating System and Devices*

### IBM DB2 Universal Database バージョン 6

- メッセージ解説書 (GD88-7267-00)

### IBM DB2 Universal Database バージョン 7.1

- メッセージ解説書 第 1 巻 (GC88-8543-00)
- メッセージ解説書 第 2 巻 (GC88-8544-00)

### IBM Content Manager バージョン 6

- メッセージおよびコード (SD88-7326-00)
- 計画およびインストールの手引き (GD88-7322-00)

### IBM Content Manager バージョン 7

- メッセージおよびコード (SC88-8747-00)
- *Content Manager* の計画およびインストール (GC88-8742-00)

### IBM Content Manager VideoCharger

- *Content Manager VideoCharger* の計画とインストール (GC88-9208-00)



# 索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## 【ア行】

### アプリケーション

統合、バージョン 8 へのマイグレーションのためのシナリオに組み込まれた 24

### フォルダー・マネージャー

シナリオ、ICM コネクターへのマイグレーションを含む 20

マイグレーションに関する推奨事項 39

マイグレーションのための API のグループ化 39

### DL コネクター

シナリオ、ICM コネクターへのマイグレーションを含む 22

マイグレーションに関する推奨事項 40

### ICM コネクター

シナリオ、フォルダー・マネージャーからのマイグレーションを含む 20

シナリオ、DL コネクターからのマイグレーションを含む 22

イメージ検索、バージョン 8 でサポートされなくなった 2

### ウィザード、マイグレーション

実行 33

実行準備 31

説明 31

バージョン 6 または 7 データのマイグレーション 31

AIX での起動 33

Content Manager バージョン 8 に組み込まれた 31

Windows NT での起動 33

### オブジェクト

異なる製品にマップされた概念 3

定義済み 4

リソース項目によってポイントされた 4

### オブジェクト・サーバー

バージョン 6 または 7 からのマイグレーション

ライブラリー・サーバー、

VideoCharger バージョン 7、および Client for Windows とともに 15

ライブラリー・サーバーおよび

Client for Windows との 14

ライブラリー・サーバーおよび EIP

V7 ツールキットおよび eClient

とともに 26

ライブラリー・サーバーおよび EIP

V7 ツールキットおよび統合アプリケーションとともに 24

ライブラリー・サーバーおよびフォルダー・マネージャー・アプリケーションとともに 20, 22

バージョン 8 と共存するバージョン 7 28

マイグレーション・ウィザードの実行前に停止 32

リソース・マネージャーとの置き換え 1

OS/2、ライブラリー・サーバーおよび Client for Windows とともにバージョン 2 からのマイグレーション 18

## 【カ行】

### 概念

中核 3

ワークフロー 6

Content Manager とのマップ

旧バージョンの Content Manager 3

旧バージョンの Content Manager のワークフロー 6

Enterprise Information Portal 3

Enterprise Information Portal のワークフロー 6

IWP/WAF 3

IWP/WAF のワークフロー 6

OnDemand 3

### 関係

参照 5

集合体

階層項目タイプ 4

リンク 5

リンク 5

管理クライアント、共通の 1

関連

参照 5

リンク 5

キー・フィールド、属性へのマップ 3

クライアント、共通システム管理の 1

検索  
イメージ検索、バージョン 8 でサポートされなくなった 2

テキスト、Text Information Extender を使用した 2

### 項目

属性および 4

他の項目に関連付けられた

参照 5

リンク 5

定義済み 4

複数バージョン 4

リソース 4

### 項目タイプ

階層 3

子コンポーネント 3

異なる製品にマップされた概念 3

ルート・コンポーネント 3

### 子コンポーネント

階層項目タイプのパーツ 3

多値属性の構成 5

ルートまたは親で除去 4

コネクター、DL

「DL コネクター」を参照 22

コネクター、ICM

「ICM コネクター」を参照 20

コンポーネント

子

参照によって他のルートに関連付けられた 5

説明 3

多値属性の構成 5

ルートまたは親で除去 4

ルート

参照によって他のコンポーネントに関連付けられた 5

除去 4

説明 3

リンクによって他のルート・コンポーネントに関連付けられた 5

## 【サ行】

サーバー

オブジェクト

「オブジェクト・サーバー」を参照  
14

ライブラリー

「ライブラリー・サーバー」を参照  
14

索引、クラス、項目タイプへのマップ 3  
参照

定義済み 5

ルートおよび子コンポーネントを関連  
付ける 5

システム管理クライアント、共通の 1  
属性

旧バージョンの Content Manager から  
変更されていない概念 5

子コンポーネントで構成された多値の  
5

異なる製品にマップされた概念 3

複数のメンバーではない 5

属性グループ

説明 5

例 5

## 【タ行】

注釈、異なる製品にマップされた概念 3  
テキスト検索、説明 2

テキスト検索エンジン、サポートされな  
くなった 2

デスクトップ・クライアント

「Client for Windows」を参照 14

統合アプリケーション、シナリオには、  
EIP バージョン 7 から CM バージョ  
ン 8 へのマイグレーションが含まれていま  
す 24

## 【ナ行】

認可特権セット

定義済み 34

マイグレーション中の選択 34

## 【ハ行】

バージョン

多重項目 4

保守する数 4

パーツ、オブジェクトへのマップ 3

フォルダー、異なる製品にマップされた概  
念 3, 6

フォルダー・マネージャー API

有効なマイグレーションのためのグル  
ープ化 39

ICM コネクター対応

Ip2ActivateItem 52

Ip2AddContentClass2 50

Ip2AddGroup 49

Ip2AddUser 49

Ip2AddUserToGroup 49

Ip2CheckInItem 42

Ip2CheckOutItem 42

Ip2CloseTOC (項目検索時) 43

Ip2CloseTOC (パラメトリック検索  
用) 42

Ip2CloseTOC (ワークフロー用) 52

Ip2CompleteWorkFlow 51

Ip2CreateAttr 48

Ip2CreateClass 47, 48

Ip2CreatePrivSet 50

Ip2DeleteAttr 48

Ip2DeleteContentClass 50

Ip2DeleteGroup 49

Ip2DeleteIndex 48, 49

Ip2DeletePrivSet 50

Ip2DeleteUser 49

Ip2EndTransaction 41

Ip2GetNextWorkBasketItem 52

Ip2ListAttrs 48

Ip2ListServers 40

Ip2ListUser 50

Ip2ListWorkBaskets 52

Ip2ListWorkFlows 52

Ip2ModifyAttr 48, 49

Ip2ModifyContentClass2 50

Ip2ModifyGroup 49

Ip2ModifyPrivSet 50

Ip2ModifyUser 41, 49

Ip2QueryObjectAccess 45

Ip2RemoveUserFromGroup 49

Ip2RouteWipItem 51

Ip2SetUserExits 41

Ip2SMSCreateEntity 51

Ip2SMSDeleteEntity 51

Ip2StartTransaction 41

Ip2StartWorkFlow 51

Ip2SuspendItem 51

Ip2UpdateAccessList 50

Ip2WriteHistoryEvent 40

SimLibAddFolderItem (項目更新  
用) 44

SimLibAddFolderItem (項目作成  
用) 42

SimLibAddFolderItem (フォルダーへ  
の項目の追加) 45

SimLibCatalogObject 45

SimLibChangeIndexClass 47

フォルダー・マネージャー API (続き)

ICM コネクター対応 (続き)

SimLibChangeObjectSMS 46

SimLibCloseAttr 44, 47

SimLibCloseObject 45

SimLibCreateItem 42

SimLibCreateItemPartExtSrc (オブ  
ジェクトおよび項目のリンク  
用) 46

SimLibCreateItemPartExtSrc (項目  
更新用) 44

SimLibCreateItemPartExtSrc (項目  
作成用) 42

SimLibCreateItemPartExtSrc (パー  
ツ作成用) 44

SimLibCreateItemPartExtSrc (パー  
ツのインポート用) 45

SimLibCreateItemPartExtSrc (パー  
ツの追加および索引付け用) 53

SimLibDeleteItemPartExtSrc (項目  
更新用) 44

SimLibDeleteItemPartExtSrc (項目  
削除用) 44

SimLibDeleteItemPartExtSrc (パー  
ツまたはリソース項目の削除  
用) 45

SimLibDeleteObject (項目からのパ  
ーツ除去用) 46

SimLibDeleteObject (項目更新  
用) 44

SimLibDeleteObject (項目削除  
用) 44

SimLibDeleteObject (パーツまたは  
リソース項目の削除用) 45

SimLibDeleteItemPartExtSrc 46

SimLibGetAffiliatedTOC (結合検索  
用) 55

SimLibGetAffiliatedTOC (項目検索  
用) 43

SimLibGetAffiliatedTOC (パラメト  
リック検索用) 42

SimLibGetAttrInfo 48

SimLibGetIndexClassView 43

SimLibGetItemAffiliatedTOC 45

SimLibGetItemInfo 42

SimLibGetItemInfo (結合検索  
用) 55

SimLibGetItemInfo (項目ステータス  
判別用) 42

SimLibGetItemSnapshot 42, 43

SimLibGetTOC (結合検索用) 55

SimLibGetTOC (項目検索用) 43

SimLibGetTOC (パラメトリック検  
索用) 42

SimLibGetTOC (ワークフロー  
用) 52

フォルダー・マネージャー API (続き)

ICM コネクター対応 (続き)

SimLibIndexClassView 55

SimLibIndexPartExtSrch 53

SimLibInvokeSearchEngine 53

SimLibInvokeSearchEngine (項目更新時) 44

SimLibInvokeSearchEngine (項目作成時) 42

SimLibInvokeSearchEngine (項目へのパーツ追加時) 46

SimLibInvokeSearchEngine (パーツ更新時) 45

SimLibInvokeSearchEngine (パーツ作成時) 44

SimLibInvokeSearchEngine (パーツの追加および索引付け時) 53

SimLibListClasses 47

SimLibListClassViews 47

SimLibLoadMediaObject 45

SimLibLoadMediaObject (項目更新時) 44

SimLibLoadMediaObject (項目作成時) 42

SimLibLoadMediaObject (項目へのパーツ追加時) 46

SimLibLoadMediaObject (パーツ作成時) 44

SimLibLoadMediaObject (パーツの追加および索引付け時) 53

SimLibLogoff 40

SimLibLogon 40

SimLibOpenByUniqueName 43

SimLibOpenItemAttr 44, 47

SimLibOpenObject (パーツ検索時) 45

SimLibOpenObject (パーツのエクスポート時) 45

SimLibOpenObject (パーツの事前取り出し時) 46

SimLibQueryObject 45

SimLibReadObject 43

SimLibRemoveFolderItem 44, 45

SimLibSearch 42

SimLibSearch (結合検索用) 55

SimLibSearch (パラメトリック検索用) 42

SimLibSeekObject 43

SimLibSetIndexClassView (結合検索用) 55

SimLibSetIndexClassView (項目検索時) 43

SimLibSetIndexClassView (パラメトリック検索用) 42

SimLibStoreNewObject (オブジェクトのインポート用) 45

フォルダー・マネージャー API (続き)

ICM コネクター対応 (続き)

SimLibStoreNewObject (項目更新用) 44

SimLibStoreNewObject (項目作成用) 42

SimLibStoreNewObject (パーツ作成用) 44

SimLibStoreNewObject (パーツの追加および索引付け用) 53

SimLibStoreNewObject (パーツの追加用) 46

SimLibStoreObject 53

SimLibStoreObject (項目更新用) 44

SimLibStoreObject (項目作成用) 42

SimLibStoreObject (パーツ作成用) 44

SimLibStoreObject (パーツのインポート用) 45

SimLibStoreObject (パーツの追加用) 46

SimLibUpdateObject 44

SimLibUpdatePartExtSrch 44, 45

SimLibWriteAttr 44, 47

フォルダー・マネージャー・アプリケーション、マイグレーション

シナリオの ICM コネクター・アプリケーションへ 20

推奨事項 39

API のグループ化 39

文書、異なる製品にマップされた概念 6

文書ルーティング

バージョン 8 で組み込まれた 1

## [マ行]

マイグレーション

ウィザード

実行 33

実行準備 31

説明 31

AIX での起動 33

Content Manager バージョン 8 に組み込まれた 31

シナリオ、要約表 11

マイグレーション、ウィザード

バージョン 6 または 7 データのマイグレーション 31

Windows NT での起動 33

## [ヤ行]

ユーティリティ、マイグレーション

実行 33

実行準備 31

ユーティリティ、マイグレーション (続き)

説明 31

バージョン 6 または 7 データのマイグレーション 31

AIX での起動 33

Content Manager バージョン 8 に組み込まれた 31

Windows NT での起動 33

用語

中核をなす概念 3

ワークフロー 6

Content Manager とのマップ

旧バージョンの Content

Manager 3

Enterprise Information Portal 3

IWP/WAF 3

OnDemand 3

Content Manager のワークフローとマップされた

旧バージョンの Content Manager

のワークフロー 6

Enterprise Information Portal のワーク

フロー 6

IWP/WAF のワークフロー 6

## [ラ行]

ライブラリー・サーバー

バージョン 6 または 7 からのマイグレーション

オブジェクト・サーバー、

VideoCharger バージョン 7、および Client for Windows とともに

15

オブジェクト・サーバーおよび フ

ォルダー・マネージャー・アプリケーションとともに 20

オブジェクト・サーバーおよび

Client for Windows との 14

オブジェクト・サーバーおよび DL

コネクター・アプリケーションとともに 22

オブジェクト・サーバーおよび EIP

V7 ツールキットおよび eClient

とともに 26

オブジェクト・サーバーおよび EIP

V7 ツールキットおよび統合アプリケーションとともに 24

バージョン 2 OS/2 オブジェク

ト・サーバーおよび Client for

Windows とともに 18

バージョン 8 と共存するバージョン

7 28

マイグレーション・ウィザードの実行

前に停止 32



リソース・マネージャー  
オブジェクトへのアクセス  
クライアント 1  
サード・パーティー 1  
説明 1  
LDAP のサポート 1

リンク  
定義済み 5  
ルート・コンポーネントを関連付ける  
5  
ルーティング、文書の  
「文書ルーティング」を参照 1  
ルート・コンポーネント  
階層項目タイプのパーツ 3  
除去 4

## [ワ行]

ワークフロー  
異なる製品にマップされた概念 6  
「文書ルーティング」を参照 1  
ワーク・ステップ、異なる製品にマップさ  
れた概念 6  
ワーク・リスト、異なる製品にマップされ  
た概念 6

## C

C アプリケーション  
「フォルダー・マネージャー・アプリ  
ケーション」を参照 39  
Client for Windows  
バージョン 6 または 7 からのマイグ  
レーション  
ライブラリー・サーバー、オブジェ  
クト・サーバー、および  
VideoCharger バージョン 7 とと  
もに 15  
ライブラリー・サーバーおよびオブ  
ジェクト・サーバーとの 14  
ライブラリー・サーバーおよびバー  
ジョン 2 OS/2 オブジェクト・サ  
ーバーとともに 18  
バージョン 8 と共存するバージョン  
7 28

## D

DB2  
データのマイグレーションに必須  
管理権限のあるユーザー名 32  
バージョン 8 のライブラリー・サ  
ーバーへの接続 32

DL コネクター・アプリケーション、マイ  
グレーション  
推奨事項 40  
マイグレーション・シナリオの一部と  
して ICM コネクター・アプリケー  
ションへ 22

## E

eClient、CM ライブラリー・サーバー、オ  
ブジェクト・サーバー、および EIP ツ  
ールキットを含むバージョン 7 からの  
マイグレーション 26  
EIP ツールキット、バージョン 7 からの  
マイグレーション  
CM ライブラリー・サーバーおよびオ  
ブジェクト・サーバー、および  
eClient とともに 26  
CM ライブラリー・サーバーおよびオ  
ブジェクト・サーバー、および統合  
アプリケーション 24

## I

ICM コネクター対応 DL コネクター API  
DKAccessControlDL  
addAccessControlList 50  
deleteAccessControlList 50  
listPrivilege 50  
updateAccessControlList 50  
DKBlobDL  
add 44, 53  
add(fileName) 45  
changeStorage 46  
del 45  
retrieve 45, 46  
retrieve(fileName) 45  
setExtension 46  
setToBeIndexed 53  
update 45  
DKDatastoreDL  
retrieveObject(ddo) 43  
DKDatastoreAdminDL  
addContentDef 50  
deleteContentDef 51  
updateContentDef 50  
DKDatastoreDL  
addFolderItem(folder, member) 45  
addObject(ddo) 42  
changePassword 41  
checkIn 42  
checkOut 42  
commit 41  
connect 40  
deleteObject(ddo) 44

ICM コネクター対応 DL コネクター  
API (続き)

DKDatastoreDL (続き)  
disconnect 40  
evaluate 42, 55  
execute 42, 55  
executeWithCallBack 42, 55  
isCheckedOut 42  
listAttrs 48  
listDataSources 40  
listEntities 48  
listEntityAttrs(entityName) 48  
moveObject 47  
removeFolderItem(folder,mbr) 45  
retrieveFormOverlay 43  
rollback 41  
startTransaction 41  
updateObject(ddo) 44

DKDatastoreTS  
clearIndex 54  
connect 53  
createIndex 53  
deleteIndex 53  
disconnect 53  
evaluate 53  
execute 53  
executeWithCallBack 53  
getIndexFunctionStatus 54  
getIndexInformation 54  
setIndexFunctionStatus 54  
startUpdateIndex 54

DKDDO  
add 42  
del 44  
retrieve 43  
setData 43  
update 44

DKFolder  
addMember 45  
removeMember 45

DKParts  
addMember(doc, part) 46  
removeMember(doc, part) 46  
dkResultSetCursor  
fetchNext (結合検索用) 55  
fetchNext (テキスト検索用) 53  
fetchNext (パラメトリック検索  
用) 42  
fetchObject (結合検索用) 55  
fetchObject (テキスト検索用) 53  
fetchObject (パラメトリック検索  
用) 42

DKStorageManageInfoDL クラス 46  
DKUserMgmtDL  
add 49  
del 49



ICM コネクター対応 DL コネクター

API (続き)

DKUserMgmtDL (続き)

update 49

DKWorkBasketDL

getNextHighPriorityItem 52

listItemIDs 52

listWorkManagementInfos 52

DKWorkflowServiceDL

completeWorkflowItem 51

listWorkBasketIDs 52

listWorkBaskets 52

listWorkflowIDs 52

listWorkFlows 52

routeWipItem 51

startWorkflow Item 51

## S

SMS サーバー、マイグレーション・ウィ

ザードの実行前に停止 32

## T

Text Information Extender (TIE)

テキストの検索 2

メタデータの検索 2

TIE

Text Information Extender を参照 2

## W

Windows Client

「Client for Windows」を参照 14







プログラム番号: 5724-B19

Printed in Japan

SC88-9202-01



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12